JAPAN GAMES

昭和100年

2026 AOMORI

青の煌(きら)めきあおもり国スポ



むつ市マスコットキャラクター
ムッシュ・ムチュラン１世

第８０回国民スポーツ大会

フェンシング競技会

会期　**10.10(土)-10.13(火)**

会場　むつ市　むつ総合アリーナ（むつマエダアリーナ）

主催　公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人フェンシング協会、文部科学省、青森県、むつ市

第80回国民スポーツ大会
The 80th JAPAN GAMES

国民スポーツ大会（国スポ）は、都道府県対抗で毎年開催される国内最大のスポーツの祭典です。本県での開催は、前回のあすなろ国体(※)以来49年ぶりであり、前回同様、冬季大会と本大会を同一県で開催する「完全国スポ」です。

※2024年から「国民体育大会」の名称が「国民スポーツ大会」に変わりました。

あすなろ国体とは？

昭和52年、青森県で国体史上初となる完全国体（冬・夏・秋と3季にわたり行われる大会を同一県で実施した国体）として、第32回国民体育大会（あすなろ国体）が県内各地で華々しく開催され、本県は天皇杯を獲得しました。



大会愛称

青の煌(きら)めきあおもり国スポ

青い空、青い海や湖、青い山並みなど美しく豊かな自然に恵まれた青森県で、あおもり国スポに参加する全ての人々が、交流を深め、感動を創出し、いきいきと煌めくような大会を目指します。

スローガン

翔けろ未来へ縄文の風に乗って

縄文時代の遺跡が数多く存在する青森から、新たな歴史と感動を全国に向けて発信し、未来につなげていきたいという願いを込めています。

イメージソング「翔けろ未来へ」



作詞：井元 仁江
作曲：T.Mikami
編曲：多田 慎也、島田 尚
歌唱：りんご娘
（ピンクレディ、スターキングデリシャス、はつ恋ぐりん、金星）

ダンス「青の煌(きら)めきダンス」



イメージソング「翔けろ未来へ」にあわせ、振付けに青森県を表現するポーズやねぶたの跳人の動き、手話による表現などを盛り込んだ、青森らしいユニバーサルデザインダンスです。

公式マスコット



「アップリート君」

特徴ある県の形と、ハチマキの中央にある「りんご」で青森県を表現しています。

LINEスタンプも販売！

最新情報は公式アプリ・HP・SNSで！

公式アプリ

Download on the App Store　GET IT ON Google Play

あおもり国スポ　検索

今すぐ無料ダウンロード！

公式HP　X　Instagram　YouTube

目　次

あいさつ
公益財団法人日本スポーツ協会　会長　遠藤　利明・・・



あ　い　さ　つ

公益財団法人日本スポーツ協会
会　長　　遠　藤　　利　明

はじめに、本年 7 月 28 日に発生した令和 8 年熊本地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、同地震及び昨年 12 月 8 日に発生した青森県東方沖地震により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げ、一日も早い復興と皆様のご健康を心からお祈りいたします。

第 80 回国民スポーツ大会は、本年 1 月から 2 月に行われた冬季大会と併せ、「完全国スポ」として開催いたします。

第 71 回岩手大会以来、10 年ぶりとなる「完全国スポ」を締めくくる本大会が、縄文の時代から育まれてきた歴史と文化を有し、豊かな風土に恵まれた本州最北の地、ここ青森県において、盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

本年は、第２５回オリンピック冬季競技大会（ミラノ・コルティナ）や第２０回アジア競技大会（愛知・名古屋）などの大規模な国際総合競技大会が開催され、多くのアスリートが華々しい活躍を見せています。

また、初の北中米共催となった、サッカーFIFA ワールドカップ 2026 も大きな盛り上がりを見せ、日本中がスポーツの熱狂と感動に包まれる 1 年となっています。

本大会がこの熱狂と感動をさらに高め、「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」というスローガンのとおり、出場するアスリートの皆様にとって、世界へ羽ばたく契機となることを切に願っています。

さて、日本スポーツ協会では、「有識者会議」からの提言に基づき、令和 7 年 7 月、改革を具体的に進める組織として、「国スポ改革タスクフォース」を設置しました。

今後、現状と課題を分析し、国民スポーツ大会が競技性・祝祭性・社会性・文化性を掛け合わせた、「トップアスリートと地域スポーツの好循環　～人と地域の未来を創る～」という理念を具現化できる大会となるよう、検討を進めることとしております。

結びに、昨年 12 月に発生した青森県東方沖地震などにより、県内各地で甚大な被害が生じる中、本大会の開催にあたり諸準備にご尽力いただきました、青森県をはじめ関係の皆様方のご支援、ご協力に対し心から深く感謝申し上げます。



あ　い　さ　つ

文　部　科　学　大　臣

松　本　　洋　平

はじめに、令和８年熊本地震によりお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。

文部科学省としては、被災された熊本県をはじめとする自治体への支援に全力を挙げて取り組んでまいります。

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、ここ青森県において昭和１００年記念第８０回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」が盛大に開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。

青森県は、世界自然遺産の「白神山地」、四季折々の表情を見せる「八甲田山」や「岩木山」など豊かな自然の魅力にあふれ、世界文化遺産である「北海道・北東北の縄文遺跡群」や重要無形民俗文化財である「青森のねぶた」など、自然と文化が息づく県です。

昭和５２年のあすなろ国体以来４９年ぶりの青森県での開催となり、「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」をスローガンに、県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。

本大会は、史上初となる総合開会式・閉会式の屋内開催に加え、大会公式アプリによる競技情報や結果速報の提供、デジタルチケットの活用などデジタル技術の活用により、選手と観客双方に配慮した大会運営となっています。「青の煌めきあおもり国スポ」が、国民に夢と感動を与え、青森県の魅力発信と活性化につながる大会となりますことを心から願っております。

郷土の代表として参加される選手の皆さんが、積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮され、我が国の国際競技力の向上が図られるとともに、この機会に全国の仲間や青森県民の皆さんとの交流を通じて、思い出に残る大会となりますことを期待しております。

昨年度は、東京２０２５世界陸上競技選手権大会、第２５回夏季デフリンピック競技大会東京２０２５、ミラノ・コルティナ２０２６冬季オリンピック・パラリンピック競技大会が、今年度は、愛知・名古屋において、第２０回アジア競技大会、第５回アジアパラ競技大会が開催され、国民のスポーツへの関心はますます高まっているところです。

文部科学省としましても、アスリートや子供たちの活動の機会を確保し、スポーツの持つ力やすばらしさが社会の活力につながるよう、関係の皆様と一丸となって取組を進めてまいります。

結びに、「青の煌めきあおもり国スポ」の開催に当たり御尽力いただいた地元青森県、会場となる各市町村をはじめとする関係の皆様の御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶といたします。

（令和８年７月３１日現在）



あ　い　さ　つ

公益社団法人日本フェンシング協会
会長　　千　田　　健　一

第 80 回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」の開催にあたり、全国各地からお集まりいただく選手、監督、関係者の皆様を心より歓迎申し上げます。

このたび、青森県むつ市においてフェンシング競技が開催されますことを、大変うれしく思います。国民スポーツ大会は、各都道府県を代表する選手が日頃の鍛錬の成果を発揮するとともに、競技を通じて交流を深め、スポーツの素晴らしさを広く伝える大切な機会です。

フェンシングは、剣を介して一瞬の判断と高度な技術、そして強い精神力を競い合う競技です。選手たちが繰り広げるスピード感あふれる攻防、最後まで勝負を諦めない姿勢は、きっと多くの皆様に感動と興奮を届けてくれることと思います。

開催にあたり、ご尽力いただきました青森県、むつ市をはじめ、関係団体、競技役員、ボランティアの皆様、そして大会を支えてくださるすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

選手の皆様には、これまで培ってきた力を存分に発揮し、仲間やライバルとの絆を大切にしながら、心に残る熱戦を繰り広げていただくことを期待しております。

本大会が、フェンシングのさらなる発展と普及につながるとともに、青森の地に新たな交流と感動を生み出す大会となりますことを心より祈念し、歓迎のご挨拶といたします。



歓迎のことば

青森県知事　　宮　下　　宗　一　郎

はじめに、令和８年熊本地震によってお亡くなりになられた方々に、深く追悼の意を表しますとともに、御遺族と被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

昭和１００年記念青の煌(きら)めきあおもり国スポ「第８０回国民スポーツ大会」が昭和元年（１９２６年）から起算して満１００年の節目となる年に、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、青森県において開催されますことをお喜び申し上げます。そして、全国各地からお越しくださいました選手及び関係者の皆様を、県民を代表して心から歓迎いたします。

「青の煌(きら)めきあおもり国スポ」は、冬季大会と本大会を同じ県で開催した史上初の完全国体である「あすなろ国体」以来４９年ぶりとなる青森県での開催であり、国民体育大会から国民スポーツ大会に大会名称が変更されてから、初の“完全国スポ”となります。

「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」のスローガンのもと、美しく豊かな自然の恵みを受けながら、一万年以上にわたり縄文文化が営まれていたこの青森の地で生まれる新たな歴史と感動、そしてこれを希望ある未来へつなげていきます。

“スポーツで青森県が一つ”に、“私たち県民の心がスポーツで一つ”になる、「青森新時代」の大会を目指し、県民総参加で青森県を青の煌(きら)めき一色に染め上げ、スポーツの祭典を盛り上げたいと考えています。

選手の皆様には、日々の練習で培ったパフォーマンスを存分に発揮されますとともに、感動と温かい交流にあふれ、皆様の心に残る最高の大会となることを願っています。

また、この機会に、十和田湖・奥入瀬渓流や世界自然遺産「白神山地」に代表される美しく雄大な自然、「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界文化遺産に登録された三内丸山遺跡をはじめ、数々の名所・旧跡が織りなす悠久の歴史・文化、新鮮で郷土色豊かな食など、本県のさまざまな魅力に触れ、楽しんでいただければ幸いです。

結びに、今大会の開催に御尽力されました関係者の皆様に心から感謝を申し上げるとともに、今大会の成功と選手の皆様の御健闘をお祈りし、歓迎のことばといたします。



歓 迎 の こ と ば

青の煌(きら)めきあおもり国スポ・障スポむつ市実行委員会会長

むつ市長　　山　本　　知　也

はじめに、令和８年熊本地震によりお亡くなりになられた方々に、深く哀悼の意を表しますとともに、被災された全ての皆様に謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復興と、皆様の平穏な生活が戻りますよう心からお祈りいたします。

青の煌めきあおもり国スポ「第８０回国民スポーツ大会」フェンシング競技会が、本州最北の市、ここむつ市において盛大に開催できますことを大変嬉しく思いますとともに、全国各地からお越しの選手・監督並びに関係者の皆さまを、むつ市民を代表して心より歓迎申し上げます。

青森県での開催は、昭和５２年の「あすなろ国体」以来、４９年ぶりの開催となり、むつ市では、正式競技４競技、デモンストレーションスポーツ１競技を行います。大会期間中、本市を訪れるすべての皆様を、心のこもったおもてなしでお迎えできるよう、市民一丸となって準備を進めてまいりました。

競技会場においては、地元の小中学生が学校観戦として応援に駆けつけ、ピスト上の選手の皆様に大きな声援を送ります。また、本市自慢の銘菓などによるおもてなしなどを通じて、多くの市民ボランティアとともに訪れる皆様を心から歓迎いたします。選手と市民が一体となって大会を盛り上げ、心に残る熱いひとときを共有できることを楽しみにしております。

選手の皆様におかれましては、郷土の誇りを胸に、日頃の鍛錬の成果を存分に発揮され、記憶に残る素晴らしい大会となりますよう祈念いたします。

むつ市は、三方を海に囲まれ、四季折々に表情を変える豊かな自然が息づくまちです。市の中心にそびえ立つ釜臥山から見下ろす夜景は、その輝きがまるで「光のアゲハチョウ」のように見えることから世界夜景遺産にも認定されており、息をのむほどの美しさを誇ります。また、霊場「恐山」の神秘的な景観や、心身を癒やす豊富な温泉に恵まれているほか、海峡サーモンやホタテをはじめとする新鮮な海の幸は、本市が自信を持っておすすめする至極の逸品でございます。

ご参加の皆様には、ぜひこの機会に、むつ市が誇る美しい景色、豊かな食、そして市民の温かなもてなしに心ゆくまで触れていただき、たくさんの楽しい思い出をお持ち帰りいただければ幸いです。

結びに、本大会の開催にあたり、多大なる御尽力を賜りました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、選手の皆様のご健闘を祈念申し上げ、歓迎のことばといたします。



歓迎のことば

一般社団法人青森県フェンシング協会
会長　　駒　井　　昭　雄

「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」のスローガンのもと、下北半島むつ市「むつマエダアリーナ」において第８０回国民スポーツ大会青の煌めきあおもり国スポフェンシング競技会が盛大に開催できますことを大変うれしく思います。

昭和５２年１０月に、津軽半島今別町町立体育館で開催された、「あすなろ国体」開催から半世紀ぶりとなる国民スポーツ大会となります。令和元年より開催準備を始め、昨年１１月には「第７８回全日本フェンシング選手権大会団体戦」を「むつマエダアリーナ」で開催し、本大会に向けたリハーサルを行っております。

ここに至るまで、コロナ禍で準備を中断せざるを得ない苦しい時期もありましたが、昨年の全日本団体戦では、青森県成年男子チームが４９年ぶりの優勝を成し遂げるという嬉しい出来事もあり、本県フェンシング関係者一同は、全国各ブロックを勝ち抜いた選手、監督並びに関係者の皆様を、心から歓迎する準備を進めてきました。

今大会もまた、公益社団法人日本フェンシング協会様の協力を得ながら、青の煌めきあおもり国スポ・障スポむつ市実行委員会様並びに青森県フェンシング協会関係者が一致団結し、誠心誠意に大会を運営してまいります。出場する選手の皆様の活躍による大会の熱い感動と興奮が、フェンシング競技の普及拡大の気運を高めることを祈願しております。

結びに、本大会の開催にご尽力とご支援をいただきました国及び県関係者の皆様、そして、青森県フェンシング協会並び、今大会の開催をお引き受けいただきました、むつ市様をはじめ大会準備運営をしていただきましたむつ市実行委員会及び関係者の皆様に、お礼と感謝を申し上げまして、歓迎の挨拶とさせていただきます。



天皇杯　　皇后杯

国民スポーツ大会天皇杯・皇后杯授与規程

第１条　国民スポーツ大会開催基準要項第 11 項に基づき、天皇杯は、男女総合成績第１位の都道府県、皇后杯は、女子総合成績第１位の都道府県に授与する。

２　第１位が２都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第２条　天皇杯及び皇后杯は、総合閉会式に授与し、次回の総合開会式において返還する。

第３条　天皇杯又は皇后杯を授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

(1)　信託会社又は確実な金庫に保管する。

(2)　破損、紛失等の場合は、当該都道府県の責任とする。

(3)　公益財団法人日本スポーツ協会が優勝都道府県名刻印のため又はその他の必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第４条　本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附　則　本規程は、昭和 41 年４月　１日制定
昭和 45 年１月 22 日一部改定
昭和 48 年７月 10 日一部改定
昭和 54 年５月　９日一部改定
平成 17 年６月 16 日一部改定
平成 22 年３月 17 日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成 23 年４月１日）から施行する。
平成 30 年４月　１日一部改定
令和　６年１月　１日一部改定



大会会長トロフィー

国民スポーツ大会会長トロフィー授与規程

第１条　国民スポーツ大会開催基準要項第 11 項に基づき、国民スポーツ大会会長トロフィー(以下「大会会長トロフィー」という。)は、正式競技別男女総合成績第１位の都道府県に授与する。

２　第１位が２都道府県以上の場合は、当該都道府県で共有する。

第２条　大会会長トロフィーは、競技会表彰式に授与し、次回競技会において返還する。

第３条　大会会長トロフィーを授与された都道府県は、次の各項の義務を有する。

(1)　責任をもって保管する。

(2)　破損、紛失等の場合は当該都道府県の責任とする。

(3)　優勝の刻印を次回大会までに行なうものとする。ただし、第１条第２項の場合は、当該都道府県で協議して決めるものとする。

(4)　公益財団法人日本スポーツ協会が必要により一時返還を求めた場合は、これに応じなければならない。

第４条　本規程の改廃は、国民スポーツ大会委員会の決議を経て行う。

附　則　本規程は、昭和 41 年４月　１日制定
昭和 45 年１月 22 日一部改定
昭和 48 年７月 10 日一部改定
昭和 54 年５月　９日一部改定
平成 17 年６月 16 日一部改定

本規程は、公益財団法人日本体育協会の設立の登記の日（平成 23 年４月１日）から施行する。

平成 30 年４月　１日一部改定
令和　６年１月　１日一部改定

大 会 役 員

2026年7月31日現在
（順不同・敬称略）

名誉会長	松本 洋平			
会長	遠藤 利明			
副会長	益子 直美	田中 不二夫	三宮 恵利子	森岡 裕策
	河合 純一	宮下 宗一郎		
顧問	森 喜朗	安西 孝之	岡崎 助一	越川 均
	坂元 要	勝田 隆	飯塚 悟	池田 めぐみ
	石井 砂織	植田 実	浦 美奈子	笠師 久美子
	鹿島 丈博	木平 芳定	工藤 保子	久保 正美
	小寺 洋	櫻井 由香	中嶋 実	橋本 聖子
	村松 さやか	室伏 由佳	湯川 和之	吉岡 成子
	久保 直生	藤田 裕司	藤原 誠	室城 信之
	金子 日出澄	貝瀬 智洋	森 晃	土橋 登志久
	石丸 元国	多氣 洋平	井﨑 洋志	鬼頭 有紀子
	長谷川 洋子	吉田 長寿	齋木 尚子	多賀 恒雄
	安藤 淳	上治 丈太郎	湧永 寛仁	三宅 秀一郎
	佐藤 健司	馬場 美香	堺 充廣	南 和文
	宮永 美寿津	千田 健一	中里 壮也	岡本 友章
	大野 淳	永谷 喜一郎	田村 恒彦	蒔田 実
	山﨑 勝洋	浅見 敬子	山口 徹正	田中 伸周
	村田 利衛	建部 彰弘	市野 保己	丸石 博
	中村 ゆり子	齋藤 良太郎	谷田部 和彦	木村 博美
	井上 弘	今川 啓一	近藤 重和	池谷 正成
	大澤 明美	古城 資久	小野 賢二	園山 和夫
	中山 俊行	田中 徹	知念 かおる	出口 弘之
	田邊 哲人	城門 政文	前川 恵	園田 義宜
	布村 幸彦	川原 元則	生島 典明	大沢 陽子
	谷藤 節雄	中村 伸彦	千葉 玲佳	奥山 雅信
	酒井 祐一	藤田 知巳	北條 俊明	田子 昌之
	新井 彰	山﨑 成夫	塩見 清仁	田名部 高雄
	井出 仁	今西 博一	中村 宏平	新保 暢
	森山 喜博	横山 幹夫	花崎 武彦	髙橋 繁浩
	山本 健次	増田 和伯	藤堂 寛	山本 誠三
	松本 恭幸	東 直也	奥田 晃	横尾 英治
	小西 慎太郎	近藤 一幸	堂本 ひさ美	河村 祐一

渡邊　浩三	田中　稔	高岡　晃仁	青木　章泰
城戸　英敏	小柳　勝彦	辛木　秀子	宮成　康蔵
若林　繁幸	岩元　幸成	平良　朝治	藤原　正樹
新宮　領毅	川上　隆弘	佐藤　廣子	奈良　隆
小菅　司	宇津木　妙子	菊　幸一	小林　久美
寺澤　正孝	山口　純子	中村　裕之	小林　茂樹
清水　真人	福田　かおる	増子　宏	矢野　和彦
柿田　恭良	茂里　毅	浅野　敦行	津島　淳
神田　潤一	木村　次郎	江渡　聡徳	田名部　匡代
福士　珠美	山中　泉	工藤　慎康	風張　知子
横町　俊明	西　秀記	濱舘　豊光	尾﨑　寿一
鈴木　進	三本木　温	有森　裕子	鈴木　大地
宮本　恒靖	深澤　祐二	坂田　東一	三須　和泰
川合　俊一	藤田　直志	島田　慎二	富山　英明
馬場　益弘	砂岡　良治	金丸　恭文	安道　光二
河田　正也	豊田　章男	後藤　正幸	中村　真一
河合　満	村井　満	真砂　威	土田　雅人
町田　幸男	大野　正次	世耕　弘成	笹川　善弘
納冨　中	土居　淳	久保　素子	丹羽　秀樹
津賀　一宏	岩城　光英	北村　聡	荒川　裕生
達増　拓也	鶴田　有司	吉村　美栄子	北村　清士
大井川　和彦	福田　富一	遠藤　祐司	大野　元裕
熊谷　俊人	小谷　実可子	岡田　伸浩	花角　英世
新田　八朗	山野　之義	石田　嵩人	髙野　剛
阿部　守一	田口　義隆	中谷　多加二	大村　秀章
伊藤　歳恭	高橋　祥二郎	西脇　隆俊	髙橋　知史
斎藤　元彦	福谷　健夫	宮﨑　泉	林　昭男
丸山　達也	越宗　孝昌	迫谷　章	村岡　嗣政
後藤田　正純	綾田　裕次郎	大塚　岩男	今城　純子
服部　誠太郎	宮原　耕史	平田　研	木村　敬
麻生　益直	日隈　俊郎	塩田　康一	玉城　デニー

参　　与	籾井　圭子	大杉　住子	中村　宇一	廣田　美香
	阿部　祐己	安藤　晴美	伊吹　信一	井本　貴之
	蛯沢　正勝	大崎　光明	大澤　祥宏	大澤　敏彦
	大平　陽子	小笠原大佑	川村　悟	菊池　勲
	北向　由樹	木明　和人	櫛引ユキ子	工藤　兼光
	工藤　悠平	後藤　清安	小比類巻正規	今　　博
	斉藤　孝昭	齊藤　爾	鹿内　博	清水　悦郎
	高橋　修一	高畑　紀子	田中　順造	田名部定男
	田端　深雪	鶴賀谷　貴	寺田　達也	夏坂　修
	夏堀　嘉一郎	夏堀　浩一	成田　陽光	花田　栄介
	福士　直治	丸井　裕	三橋　一三	森内之保留
	山田　知	山谷　清文	吉田ゆかり	吉俣　洋
	和田　寛司	奥田　忠雄	大田　圭	平間　恵美
	安田　博	松本　史晴	中野　博之	久慈　美穂
	三浦　猛史	千葉　雄文	後村　文子	細谷　健司
	舩木　久義	豊島　信幸	秋野　桂	上沢　謙一
	工藤　泰正	栗林　豊	新屋　孝文	簗田　潮
	佐藤　剛	安田　貴司	東山　国男	大山　力
	山本　恒太	津田　英一	米内　正明	小山内　修
	堤　静子	橋場　保人	目澤　伸一	山口　龍城
	高杉　勝彦	工藤　裕司	中居　敬子	川浪　泰浩
	宮野　孝晶	田村　琢哉	中川　伸吾	里村　智彦
	佐藤　忠全	倉橋　純造	一戸　善正	櫛引　利貞
	七尾　嘉信	佐藤　健一	岡島　裕史	工藤　智久
	三上　千春	高木　伸也	高杉金之助	小関　幸一
	外崎　れい子			
委員長	山本　浩			
副委員長	岩田　史昭	石田　裕美	出﨑　和夫	
総務委員	松永　敬子	三宅　宏実	稲垣　公雄	笠野　英弘
	関口　直樹	菅原　哲朗	田﨑　博道	松田　基子
	三ヶ田礼一	山澤　文裕	福田　一稔	宇野　武
	二宮　智浩	小竹　喜也	田内　慎也	秋田　勝行
	中尾　慶一郎	下條　伸彦	江橋　千晴	宮本　忠
	小澤　大樹	小笠原忠儀	髙井　和紀	

委　　員	平　野　　了	髙　橋　聖　一	永　井　雅　史	神　山　康　洋
	福　士　幸　洋	栗　原　　崇	竹ノ脇　智　秋	鈴　木　克　宜
	葛　西　玲　広	濱　野　　勉	寺　澤　　淳	黒　川　重　男
	舟　喜　信　生	福　島　亮　一	中　梶　秀　則	堀　越　　浩
	加　藤　憲　二	宮　川　良　輔	鈴　木　章　広	川　口　　巖
	山　口　俊　昭	岡　泉　　茂	朝　倉　康　善	木　塚　鉄　也
	平　井　宏　治	濱　﨑　　滿	岸　川　剛　之	西原　斗司男
	山　口　鉄　正	菅　原　正　幸	伊　東　毅　嗣	長　南　哲　生
	衛　藤　敬　輔	上　久　保　僚	中段　亜由美	鈴　木　信　吾
	内　田　淳　二	関　根　明　子	中　山　二三男	﨑　村　尚　人
	吉　田　由美子	杉　本　好　二	國　重　さゆり	髙　梨　治　紀
	川　口　雅　三	田　邊　賢　一	山　口　　剛	富　澤　佑　也
	政　岡　航　大	坊　　百　花	井　澤　貫　太	田　口　雅　紀
	寺　垣　佑　介	柿　﨑　繁　信	橋　口　真　夕	田　中　遥　太
	町　屋　毅　博	山　本　高　史	松　橋　伸　哉	長谷川　光　昭
	白　幡　博　久	田　畑　幸　浩	加　藤　雄　樹	小　林　健　也
	幸　田　和　洋	大　貫　大　輔	小　池　則　之	今　井　隆　元
	三　浦　　理	舟　木　雅　美	阿　部　哲　也	片　岡　英　史
	福　居　久　志	三　武　紀　子	長　坂　嘉　久	井　澤　克　行
	林　　剛　史	稲　葉　晴　伸	森　島　哲　也	和　田　吉　史
	中　野　真　吾	佐々木　智　也	木　原　哲　也	越　智　敏　文
	小　林　　悟	中　嶋　純　也	前　田　康　博	松　本　守　正
	松　本　綾　子	中　田　健　治	石　津　雅　之	加　藤　　泰
	高　田　孝　行	日　野　　剛	前　田　義　朗	笠　井　康　行
	尾　鷲　一　成	川　端　利　行	濱　本　昌　宏	吉野　賢一郎
	都　甲　尚　生	山　元　尚　史	黒　田　裕　史	髙　野　瑞　洋
	遠　藤　信　哉	角　屋　憲　正	千　葉　雅　也	菅　間　裕　晃
	岡　崎　正　彦	角　田　真　司	加藤木　紳　克	柄　澤　宏　之
	杉　田　　聡	塩　田　憲　司	藤　丸　伸　和	河　野　公　紀
	碓　井　　稔	武　田　知　己	井　上　　哲	今　後　元　彦
	沼　田　守　弘	田部　長右衛門	松　井　　守	吉　岡　直　彦
	髙　岡　晃　仁	葛　目　憲　昭	寺　崎　雅　巳	田　島　祥　嗣
	荒　木　健　治	平　江　公　一	黒木　淳一郎	城　間　敏　生
	丹　羽　浩　彰			

競 技 会 役 員

2026年9月15日現在

（順不同･敬称略）

名誉会長	山本 知也			
会長	千田 健一			
副会長	釜谷 理恵	山口 俊昭	平野 博文	柴田 文彦
	中野 敬三	駒井 昭雄		
顧問	金子 誠	織田 毅	山本 耕司	小澤 嗣央
	張西 厚志	井原 功	山本 秀雄	永岡 訓二
	中島 寛	星野 敏	廣瀬 康夫	三宅 修一
	下野 謹也	大澤 文男	冨岡 幸夫	阿部 謙一
参与	佐藤 武	工藤 祥子	高橋 征志	濵田 栄子
	杉浦 弘樹	櫻田 秀夫	住吉 年広	白井 二郎
	富岡 直哉	村中 浩明	野中 貴健	佐藤 広政
	東 健而	中村 正志	井田 茂樹	浅利 竹二郎
	岡崎 健吾	佐々木 隆徳	佐賀 英生	大瀧 次男
	佐々木 肇	田中 志昌	納谷 順子	黒木 和之
	長岡 俊成	吉田 真	齋藤 友彦	中村 智郎
	白川 光治	井戸端 隆雄	太田 寛	牧野 正蔵
	内田 大輔	石黒 一之	菊池 浩太郎	白川 直人
	本間 正行	木村 努	鷹架 則子	福岡 榮子
	角谷 公博	杉山 毅	澤田 秀樹	齋藤 憲一
	滝本 守雄	松橋 照和	遠藤 雪夫	鎌田 一仁
	佐藤 宏	松谷 勇	石橋 秀治	斉藤 洋一
	荒 正典	菊池 憲太郎	熊谷 謙一	阿部 義治

委員長	内田　敏朗			
副委員長	林　　力	鳴海　貢		
委員	曾良中　研司	和田　潔	青木　雄介	上津　孝光
	谷﨑　瑠珂	菅原　智恵子	前畑　順一	及川　あずさ
	長倉　純平	吉野谷　綾子	友利　杏奈	杉山　文野
	田淵　英孝	恒松　健児	久保　直生	中村　規代実
	平山　寛哉	戸嶋　志郎	阿部　秀嗣	真手　春彦
	畑中　俊光	坪　俊彦	木立　美佐男	山口　幸治
	古川　健太郎	大馬　卓美	山内　浩司	猪口　和則
	打谷　桂子			

競　技　役　員

2026年９月17日現在

（順不同・敬称略）

競技委員長	千田　健一			
競技副委員長	駒井　昭雄			
競技日程進行委員長	野元　伸一郎			
競技日程進行副委員長	大槻　智哉			
技術委員	飯田　徳光	山口　俊昭	末松　英司	伊勢　幹彦
	狩野　諭			
技術委員会事務局長	曾良中　研司			
技術委員会事務局次長	鳴海　貢	平山　寛哉		
技術委員会事務局員	阿部　秀嗣	川浪　光輝	古川　健太郎	伊藤　悠貴
	川崎　空	鈴木　康貴	上田　純	星野　七重
審判長	甲斐　正彦			
審判員	笹田　健一	佐藤　秀明	乙川　文旺	倉田　美月
	成田　武永	竹田　陸人	飛鷹　心那	佐藤　公良
	山崎　大知	永松　泰樹	山田　和行	四元　純一
	大野　幸太	陰平　尚弥	Huang Hao Chih	守口　一真
	中本　明希	佐藤　好寛	木村　友哉	品川　聖也
	田代　大幸	恒松　健児	二宮　斗威	
ピスト委員長	室舘　進			
ピスト副委員長	佐藤　裕介			
ピスト委員	澤田　悠太	澤田　聡	今　真哉	津川　成寿
	木立　美佐男	阿部　さつき	加藤　優弥	加藤　壱弥
	相内　大地	山内　浩司	戸嶋　愛樹	澤田　あづさ
	竹内　瞳	久保田　琉人	畑中　滉人	星野　舞衣
	八木　太一	吉田　咲乃進	荒　麻理香	柏崎　瑞仁
	坪　俊彦			

競技運営委員長	内田　敏朗			
競技運営副委員長	山口　徹			
総務委員長	真手　春彦			
総務副委員長	相馬　壮吉			
総務委員	中村　考子	竹林　美雪	菊池　龍太郎	大馬　卓美
	戸嶋　志郎			
用具検査官	釜井　昭人			
用具委員長	舘　秀行			
用具副委員長	山口　幸治			
用具委員	大馬　義明	後藤　清大	村上　涼聖	工藤　耀
記録委員長	前畑　順一			
報道委員長	及川　あずさ			
記録・報道副委員長	畑中　俊光			
記録・報道委員	村口　真由美	澤田　渉	澤田　圭子	鳴海　祐子
会場委員長	越善　洋			
会場副委員長	花谷　久美子			
会場委員	澁川　紋子	大澤　里奈	大熊　真波	舘　洋信
	吉田　瞳子	柳谷　絢香	野中　里子	石田　黎
	太田　道宏	猪股　匠	西村　美咲	片谷　葉月
	工藤　優菜			
放送委員長	佐藤　志津香			
放送委員	大澤　里奈	西村　美咲		
医務委員長	城山　和真			
医務委員	納谷　優助	小川　理恵		
総合成績計算委員長	小玉　和成			
総合成績計算委員	澤田　稔章			

競 技 補 助 員

2026年9月15日現在

（順不同）

青 森 県 立 田 名 部 高 等 学 校　　青 森 県 立 黒 石 高 等 学 校

競 技 会 係 員

青の煌めきあおもり国スポ・障スポむつ市実施本部職員一同

競 技 会 補 助 員

青の煌めきあおもり国スポ・障スポむつ市ボランティア一同

2　総　　則

開 催 の 趣 旨

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとする国内最大のスポーツの祭典である。

青森県で開催する第80回国民スポーツ大会「青の煌(きら)めきあおもり国スポ」は、「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」をスローガンに掲げ、スポーツによる感動や交流の輪が広がるとともに、本県のあらゆる魅力を発信するなど、県民総参加による青森県らしさあふれる大会を目指して開催する。

実　施　方　針

1　実施競技

⑴　正式競技（37 競技）

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ローイング、ホッケー、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、クレー射撃、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

⑵　公開競技（７競技）

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック

⑶　デモンストレーションスポーツ（39 競技）

いきいき太極拳、インディアカ、ウオーキング、ウォークビンゴ、エンジョイ！グラウンド・ゴルフ、オリエンテーリング、カーリング、空道、女子ソフトボール、スポーツウエルネス吹矢、スポーツチャンバラ、ソフトバレーボール、ターゲット・バードゴルフ、ダンススポーツ、ドッジボール、年齢別ソフトテニス、年齢別テニス、年齢別バドミントン、ノルディックウォーキング、パークゴルフ、パラグライディング、ビリヤード、ビーチサッカー、ファイン・ボール、フライングディスク、ふれあいゲートボール、ふれあいソフトボール、ふれあいボウリング、フロアボール、ペタンク、マスターズスイミング、マスターズ陸上競技、マラソン、マラソン＆ウォーキング、モルック、ユニカール、ユニバーサルホッケー、ラージボール卓球、Let’s Enjoy バウンドテニス

⑷　特別競技（１競技）

高等学校野球

２　会期及び会場地

⑴　正式競技・特別競技（11 市、11 町、2 村：計 24 市町村）

会　　期	会　場　地
2026年10月10日（土） ～10月20日（火） 〔11日間〕	青森市、弘前市、八戸市、黒石市、五所川原市、十和田市、三沢市、むつ市、つがる市、平川市、西目屋村、藤崎町、七戸町、六戸町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町、五戸町、南部町、階上町、山梨県北杜市
2026年９月３日（木） ～９月13日（日） 〔11日間〕	青森市、弘前市、十和田市、三沢市、むつ市、平内町、西目屋村、野辺地町、六ヶ所村、宮城県利府町 ※　水泳、ローイング、ホッケー、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、セーリング、ハンドボール、相撲、ライフル射撃、カヌー（スラローム・ワイルドウォーター）、クレー射撃、ゴルフ、トライアスロン競技会は上記会場地で実施
2026年10月２日（金） ～10月９日（金） 〔８日間〕	青森市、弘前市、八戸市 ※　自転車（トラックレース）、アーチェリー、高等学校野球競技会は上記会場地で実施

⑵　公開競技（３市２町：計５市町）

会　　期	会　場　地
2026年８月８日（土） ～10月４日（日）	十和田市、三沢市、平川市、平内町、藤崎町

⑶　デモンストレーションスポーツ（７市、16 町、６村：計 29 市町村）

会　　期	会　場　地
2026年５月17日（日） ～10月４日（日）	青森市、弘前市、八戸市、十和田市、三沢市、むつ市、平川市、今別町、蓬田村、外ヶ浜町、鰺ヶ沢町、深浦町、藤崎町、大鰐町、田舎館村、板柳町、鶴田町、中泊町、横浜町、東北町、おいらせ町、大間町、東通村、風間浦村、佐井村、三戸町、田子町、階上町、新郷村

⑷　文化プログラム

文化プログラムの実施については、「文化プログラム実施基準」に基づき、2026 年１月１日から 2026 年 12 月 31 日までの期間で、原則として、県内市町村で開催する。

３　競技方法

各競技別実施要項に示す方法とし、正式競技は都道府県対抗で実施する。

４　ドーピング検査の実施

大会におけるアンチ・ドーピング活動（ドーピング検査及びアンチ・ドーピング教育活動）は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構が定める「日本アンチ・ドーピング規程」及び別に定める「国民スポーツ大会アンチ・ドーピング活動に関するガイドライン」に基づき実施する。

なお、治療の目的で禁止物質・禁止方法を用いる必要がある場合は、事前に「治療使用特例」（TUE）の手続きを行うこと。

各都道府県の代表選手は、大会期間中は常に「国民スポーツ大会ドーピング検査同意書」を所持しなければならない。選手が 18 歳未満の場合、本人の署名及び親権者の署名がある同意書を所持すること。

５　参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

選手及び監督の参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準は、次のとおりとする。

なお、参加資格については、「第 80 回国民スポーツ大会参加資格、所属都道府県及び年齢基準等の解釈・説明」を併せて確認すること。

【　公益財団法人日本スポーツ協会ホームページ　https://www.japan-sports.or.jp/　】

⑴　参加資格

ア　日本国籍を有する者であることとするが、選手及び監督のうち、次の者については、日本国籍を有しない者であっても、大会に参加することができる。

(ｱ)　「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち「永住者」(「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」に定める「特別永住者」を含む。)

(ｲ)　少年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a　「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍する学生又は生徒で、「８　参加申込方法」で定めた本戦参加申込締切時に１年以上在籍していること。

b　「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、「留学」、「家族滞在」又は「定住者」に該当していること。

(ｳ)　成年種別年齢域に該当し、次の要件をいずれも満たす者

a　少年種別年齢域にあった時点において前号(ｲ)に該当していた者であること。

b　「出入国管理及び難民認定法」に定める在留資格のうち、大会参加時から終了時まで「留学」に該当しないこと。

［注］　上記(ｳ)b について、大学及び専修学校等に在籍する成年種別の年齢域に該当する者は、「出入国管理及び難民認定法」に定める「留学」以外の在留資格を有する場合も「留学」と同等に扱う。

イ　選手及び監督は、所属都道府県の当該競技団体会長（代表者）とスポーツ協会会長（代表者）が代表として認め、選抜した者であること。

ウ　第 78 回又は第 79 回大会（都道府県大会及びブロック大会を含む）において選手又は監督として参加した者は、次の場合を除き、第 78 回又は第 79 回大会と異なる都道府県から参加することはできない。

(ｱ)　成年種別

a　「学校教育法」第１条に規定する学校を卒業した者

b　結婚又は離婚に係る者

［注］　a 及び b は当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

c　ふるさと選手制度を活用する者（別記１「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

［注］　別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受け、ふるさと選手として参加する者を含む。

d　東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

e　令和６年能登半島地震に係る参加資格特例措置を活用する者（別記６「令和６年能登

半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

(ｲ)　少年種別

ａ　「学校教育法」第１条に規定する学校を卒業した者

ｂ　結婚又は離婚に係る者

ｃ　一家転住に係る者（別記２「『一家転住等』に伴う特例措置」による。）

［注］　ａからｃは当該要件発生後、初めて参加するものに限る。

ｄ　JOC エリートアカデミーに在籍する者（別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」による。）

ｅ　東日本大震災に係る参加資格特例措置を活用する者（別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

ｆ　令和６年能登半島地震に係る参加資格特別措置を活用する者（別記６「令和６年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」による。）

エ　選手と監督の兼任は、同一種別内に限る。

オ　選手及び監督は、回数を同じくする大会において、冬季大会及び本大会にそれぞれ１競技に限り参加できる。

カ　選手及び監督は、回数を同じくする大会において、異なる都道府県から参加することはできない。

キ　選手、監督並びに本部役員帯同のスポーツドクター及びアスレティックトレーナーは、大会参加前の１年以内に公益財団法人日本スポーツ協会（以下「日本スポーツ協会」という。）が指定するアンチ・ドーピング教育を受講し、「国スポ本戦出場前のアンチ・ドーピング教育履歴」に記載した者であること。

ク　上記のほか、選手については次のとおりとする。

(ｱ)　都道府県大会及びブロック大会に参加し、これを通過した者であること。

(ｲ)　健康診断を受け、競技会への参加に支障がない者であること。

(ｳ)　ドーピング検査対象に選定された場合は、検査を受けなければならない。

ケ　上記のほか、監督については日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく競技別指導者資格を有する者とし、監督が不在の場合選手は参加することができない。各競技における対象資格については当該競技実施要項によるものとする。

⑵　所属都道府県

所属都道府県は、当該競技団体が限定する場合を除き、次のいずれかが属する都道府県から選択することができる。

ア　成年種別

(ｱ)　居住地を示す現住所

(ｲ)　勤務地

(ｳ)　ふるさと（別記１「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」による。）

［注］　別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」の適用を受けふるさと選手として参加する者を含む。

イ　少年種別

(ｱ)　居住地を示す現住所

(ｲ)　「学校教育法」第１条に規定する学校の所在地（以下「学校所在地」という。）

(ｳ)　勤務地

(ｴ)　別記３「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」に定める小学校の所在地

※　「居住地を示す現住所」、「勤務地」、「学校所在地」のいずれかから参加する場合は、2026年４月30日以前から本大会終了時（2026年10月20日）まで、引き続き当該地に、それぞれ居住、勤務、又は通学していなければならない。ただし、次の者はこの限りではない。

［成年種別］

a　別記４「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

b　別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

c　別記６「令和６年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

［少年種別］

a　別記２「『一家転住等』に伴う特例措置」の適用を受ける者

b　別記４「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

c　別記５「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

d　別記６「令和６年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」の適用を受ける者

⑶　選手の年齢基準

ア　選手の年齢基準については、下記を原則とする。

(ｱ)　成年種別に参加する者は、2008年４月１日以前に生まれた者とする。

(ｲ)　少年種別に参加する者は、2008年４月２日から2011年４月１日までに生まれた者とする。

(ｳ)　年齢を区分している種別へ参加する者の年齢計算は、2026年４月１日を基準とする。

イ　日本スポーツ協会が特に認める場合は、上記アにかかわらず、競技ごとに年齢区分を設定することができる。ただし、年齢の下限は中学３年生（2011年４月２日から2012年４月１日までに生まれた者）とする。

⑷　前記の各事項に疑義のあるときは、日本スポーツ協会及び当該競技団体が調査・審議の上、日本スポーツ協会がその可否を決定する

６　各正式競技の総合成績決定方法

各正式競技の総合成績決定方法は次のとおりとする。

⑴　次のア、イの得点を合計したものを男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）とする。

ア　競技得点

競技得点は、各種別、種目などの第１位から第８位までの都道府県に与え、次のとおりとする。ただし、同順位の場合は、次の順位のものを加え、当該都道府県で等分し、割り切れない場合は、小数第３位以下を切り捨てる。

		１位	２位	３位	４位	５位	６位	７位	８位
種別	４人以下	24点	21点	18点	15点	12点	９点	６点	３点
	５人以上７人以下	40点	35点	30点	25点	20点	15点	10点	５点
	８人以上	64点	56点	48点	40点	32点	24点	16点	８点
種目	――――――	８点	７点	６点	５点	４点	３点	２点	１点

［注］　「種別」：種別などに与える競技得点　　「種目」：種目などに与える競技得点

イ　参加得点

参加得点は 10 点とし、大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に与える。

ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

⑵　各競技の総合成績は、当該競技団体が決定する。

ただし、天候その他の事情により一部競技が中止になった場合は、当該競技団体と大会総務委員会が協議する。

⑶　参加資格違反等に関わる得点等の取り扱いについては、「国民スポーツ大会における違反に対する処分に関する規程」によるものとする。

7　表彰

⑴　冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績第１位の都道府県に天皇杯を、同じく女子総合成績第１位の都道府県に皇后杯をそれぞれ授与する。

⑵　冬季大会及び本大会で実施した全正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第１位から第８位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

⑶　各正式競技の男女総合成績第１位の都道府県に、国民スポーツ大会会長トロフィーを授与する。

⑷　各正式競技の男女総合成績及び女子総合成績の第１位から第８位までの都道府県に、それぞれ表彰状を授与する。

⑸　各競技の各種別及び各種目などの第１位から第８位までに賞状を授与する。団体競技の場合は、その都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものを都道府県用に１枚、さらにその都道府県名と個人名を記載したもの、又は都道府県名とチーム全員（監督を含む）の氏名を記載したものをチーム全員に授与する。

⑹　各正式競技の第１位から第３位までの選手にメダルを授与する。

8　参加申込方法

⑴　参加申込

都道府県スポーツ協会会長（代表者）及び競技団体会長（代表者）は、連署の上、都道府県大会又はブロック大会において選抜された者及び公益財団法人日本高等学校野球連盟が選出したチームを、大会会長宛てに申込むものとする。

⑵　参加申込締切

参加申込は、定められた締切日時までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

なお、各競技別実施要項の「参加申込方法」を併せて確認すること。

⑶　参加申込締切日時

締切日時	競　　技
2026 年 ８月 13 日（木） 午後５時 【15 競技】	水泳、ローイング、ホッケー、バレーボール（ビーチバレーボール）、体操、セーリング、ハンドボール、自転車、相撲、ライフル射撃、カヌー、クレー射撃、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

2026 年 ９月３日（木） 午後５時 【24 競技】	陸上競技、サッカー、テニス、バレーボール（６人制）、バスケットボール、レスリング、ウエイトリフティング、ソフトテニス、卓球、軟式野球、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、高等学校野球

⑷　参加申込様式

参加申込様式は、日本スポーツ協会が実施競技団体と協議の上、作成する。

⑸　公開競技の参加申込

公開競技については、別途当該中央競技団体が定める所定の手続きにより行う。

⑹　選手の交代

参加申込締切後の選手の交代は、特別な事情がない限り認めない。特別な事情で選手を交代する場合は、所定の様式、方法により次のア～ウ宛てに届け出なければならない。

ア　全国を統轄する各中央競技団体事務局

イ　青の煌(きら)めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会事務局

ウ　青の煌(きら)めきあおもり国スポ・障スポ各競技会場地市町村実行委員会事務局

なお、日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、所定の手続きにより参加申込情報を修正すること。

９　棄権手続

参加申込締切後から競技初戦までの間において、特別な事情で選手が競技会を棄権する場合には、所定の棄権手続きをとらなければならない。

なお、棄権手続きに係る届出については選手交代届と同じ様式を用いること。

10　大会参加負担金

⑴　大会に参加選手団（視察員を除く）を派遣する都道府県スポーツ協会は、大会参加負担金を納入する。一人あたりの大会参加負担金の額は下記のとおりとする。

区　　分	負　担　金
少年の種別に参加する選手	３，０００円
上記以外の者（本部役員、監督、成年の種別に参加する選手等）	６，０００円

［注］　地震、風水害、感染症及びその他主催者の責によらない事由により大会を中止した場合、大会参加負担金の返金は行わない。

⑵　大会参加負担金は、都道府県スポーツ協会で取りまとめ、次のとおり納入する。

ア　納入期限　2026 年９月４日（金）

イ　納 入 先　みずほ銀行　渋谷支店　普通預金口座　513729

公益財団法人日本スポーツ協会

11　宿泊申込

大会参加者は、青の煌(きら)めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会が指定した所定の様式により、定められた締切日までに申込む。

12　都道府県選手団本部役員編成

⑴　都道府県選手団本部役員は、次のとおりとする。

ア　参加選手 500 名以上の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 20 名以内とする。

イ　参加選手 300 名以上 500 名未満の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 15 名以内とする。

ウ　参加選手 300 名未満の場合は、団長、総監督及び総務ほか、計 10 名以内とする。

⑵　上記役員のほか、５名以内の顧問を設けることができる。

⑶　上記⑴及び⑵による本部役員総数の範囲内で、スポーツドクターを帯同するものとする。

なお、帯同するスポーツドクターは日本スポーツ協会公認スポーツドクター資格を有する者とする。

⑷　上記⑴及び⑵による本部役員総数の範囲内で、原則としてアスレティックトレーナーを帯同するものとする。

なお、帯同するアスレティックトレーナーは日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を有する者とする。

⑸　都道府県選手団本部役員の１日あたりの編成人数については、上記⑴及び⑵による人数を上限とする。

⑹　都道府県選手団本部役員の参加申込は、2026 年９月３日（木）午後５時までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

13　視察員

⑴　視察員は、１都道府県３名以内とする。ただし、2027 年以降の国民スポーツ大会の開催が決定又は内定している県については、宮崎県 100 名以内、長野県及び群馬県 60 名以内、島根県及び奈良県 40 名以内とする。

⑵　都道府県の視察員の参加申込は、2026 年９月３日（木）午後５時までに国民スポーツ大会参加申込システムにより行う。

14　参加章及び AD カードの交付

参加章及び AD カードは、次の者に交付する。

⑴　参加章

ア　都道府県選手団の本部役員、監督及び選手

イ　大会役員、競技会役員及び競技団体が指定した競技役員

ウ　公開競技及びデモンストレーションスポーツ参加者

⑵　AD カード（Accreditation　Card）

ア　都道府県選手団

イ　大会役員、競技会役員及び競技団体が指定した競技役員

ウ　大会主催者及び競技会主催者が認めた者

エ　公開競技に参加する選手、監督及び役員

15　参加上の注意

⑴　大会期間中は、交付された AD カードを携帯しなければならない。

⑵　各都道府県の代表選手は、競技に際し、「国民スポーツ大会ユニフォーム規程」に基づき、ユニフォームを着用しなければならない。

16　個人情報及び肖像権に関わる取り扱い

日本スポーツ協会、青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会、青の煌めきあおもり国スポ・障スポ各競技会場地市町村実行委員会及び国民スポーツ大会実施競技中央競技団体（以下「国スポ関係機関・団体」という。）は、参加申込等を通じて取得する個人情報及び肖像権の取り扱いに関して以下のとおり対応するものとする。

⑴　個人情報の取り扱い

ア　利用目的

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された個人情報は、国スポ関係機関・団体において、参加資格の確認や競技組合せなどをはじめとする大会運営業務のために利用し、目的以外に利用しない。

イ　公表の範囲と方法

個人情報のうち、所属都道府県、氏名、性別、年齢、学校名、チーム名等、所属と個人を識別するために必要な情報については、以下の方法等により公表することがある。

(ｱ)　総合プログラム及び競技別プログラムへの掲載
(ｲ)　競技会場内におけるアナウンス等による紹介
(ｳ)　競技会場内外の掲示板等への掲載
(ｴ)　大会関連ホームページへの掲載
(ｵ)　報道機関への提供

ウ　競技結果（記録）等

競技結果（記録）については、上記イで定めた個人情報とともに、以下の方法等により公表することがある。

(ｱ)　青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会が設置する記録本部を通じた公開
(ｲ)　国スポ関係機関・団体及び報道機関等による新聞・雑誌及び関連ホームページ等への掲載
(ｳ)　国スポ関係機関・団体が作成する大会報告書等への掲載
(ｴ)　次回以降の大会プログラムへの掲載【新記録、優勝及び上位入賞結果（記録）等】

⑵　肖像権に関する取り扱い

ア　写真

国スポ関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがある。

イ　写真（写真撮影企業等）

国スポ関係機関・団体に認められた写真撮影企業等によって撮影された写真等が販売されることがある。

なお、各競技・会場における販売の有無等の詳細は、当該中央競技団体を中心に対応する。

ウ　映像

国スポ関係機関・団体又はこれらに認められた報道機関等によって撮影された映像が、中継・録画放映及びインターネットによって配信されることがある。また、DVD 等に編集され、販売・配付されることがある。

⑶　対応

ア　承諾の確認

大会参加申込として国民スポーツ大会参加申込システムへ登録された時点で、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

なお、各競技会における取り扱いに伴い、別途、当該中央競技団体等によって個別に承諾

を確認することがある。

イ　役員等

大会役員、競技役員、運営役員、その他各種委員や補助員、国スポ関係機関・団体と大会に関する契約をしている者及び大会運営関係者については、上記取り扱いに関する承諾を得たものとして対応する。

17　都道府県大会及びブロック大会

正式競技については、本大会の予選として次のとおり都道府県大会（ブロック大会）を開催しなければならない。

⑴　都道府県の主催団体は、必要に応じて日本スポーツ協会及び中央競技団体等関係団体と協議の上、本要項に基づき実施要項を作成する。

なお、日本スポーツ協会及び中央競技団体は、その内容に不備がある場合、適宜指導を行うものとする。

⑵　都道府県大会の実施にあたり、当該都道府県主催団体は、適正な手続きに則り決定した代表選手の選抜方法・選考基準について、予め関係者に周知徹底を図るものとする。

⑶　参加者は、実施要項に基づき当該主催団体に申込む。

なお、参加は、回数を同じくする大会において、冬季大会及び本大会にそれぞれ１競技に限り参加できる。

⑷　ブロック大会の申込みは、原則として国民スポーツ大会参加申込システムにより行い、様式は日本スポーツ協会及び当該主催団体が協議の上、作成する。

なお、参加申込システムを使用しない場合の様式については、当該主催団体において別途作成する。

⑸　都道府県大会の参加申込様式は、当該主催団体において作成する。

⑹　参加料を徴収する場合の金額は、当該主催団体が中央競技団体と協議の上、定める。

⑺　競技運営に差し支えない限り、青森県選手は当該競技ブロック大会を経ることなく本大会に参加することができる。

18　国民スポーツ大会参加者傷害補償制度

日本スポーツ協会及び都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者に対する社会的責任体制を整えるとともに、大会参加者の相互扶助の精神に基づいた補償制度として大会参加者による国民スポーツ大会参加者傷害補償制度を運営する。

⑴　本制度の対象となる参加者は、ブロック大会及び本大会に参加する本制度給付規定に定められた選手、監督、選手団本部役員（顧問を含む）、視察員並びにその他選手団役員とする。

⑵　大会参加の都道府県スポーツ協会は、国民スポーツ大会参加者傷害補償制度の対象となる参加者数に応じた制度負担金（一人あたり 1,000 円）を、日本スポーツ協会に納入する。

⑶　納入締切日及び納入先については、別途日本スポーツ協会から都道府県スポーツ協会へ通知する。

19　青の煌(きら)めきあおもり国スポの実施目標

⑴　スポーツによる感動の創出と地域へのスポーツの定着

スポーツを「する」「みる」「ささえる」など多様な場面で、感動が創出されることにより、県民の誰もがスポーツに関わる楽しさを感じることができる環境が整備されるとともに、県内各地で地域住民がスポーツに取り組む習慣が身につき、スポーツが地域に定着する大会とする。

⑵　自発的、積極的な県民参加による地域の活性化

県民一人ひとりが、開催準備に自発的、積極的に参加するとともに、スポーツを通した健康づくりなどに一丸となって取り組むことにより、全ての県民が心身ともに健康な状態で大会を迎え、その後も各地域が元気で活力に満ちた姿となる大会とする。

⑶　来県者への熱い心でのおもてなしとあらゆる魅力の発信

大会に参加する選手・監督・役員・応援者など数多くの来県者を熱いおもてなしの心で迎えるとともに、大会期間を通して本県のあらゆる魅力を体感していただくことにより、再び本県を訪問したいという気持ちを喚起する大会とする。

⑷　北国ならではの大会運営

北国ならではの気象条件を考慮し、総合開・閉会式を屋内開催とするとともに、競技特性も考慮の上、会期前競技を多く設定することなどにより選手ファーストを意識した大会とする。

20　その他

⑴　参加申込及び宿泊申込が、定められた締切日までに行われない場合、又は、参加負担金が定められた納入期限までに納入されない場合は、本大会への参加を認めない。

⑵　大会運営にあたり、選手・観客・大会関係者への安全を最優先に配慮し、気象状況・感染状況・交通状況・テロ行為等の各種災害に伴い、安全確保が見込めないと主催者が判断した場合は、主催者の指示に従うものとする。また、安全確保のために、参加申込システムに登録された以外の個人情報を取得する場合がある。取得した情報については、目的以外に利用しない。

⑶　その他の事項については、国民スポーツ大会開催基準要項及び同細則による。

別記１　「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」

１　成年種別年齢域の選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項〔国民スポーツ大会開催基準要項第８項第１号及び第 10 項第４号（参加資格及び年齢基準等）〕に基づき、下記のいずれかを拠点とした都道府県から参加することができる。

⑴　居住地を示す現住所

⑵　勤務地

⑶　ふるさと

２　「ふるさと」とは、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。

ただし、JOC エリートアカデミーに係る選手については、別に定める「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」第３項により取り扱うものとする。

３　我が国の競技力向上を支援する観点より、日本国籍を有する者及び「永住者」については、日本における滞在期間に関わらず、本制度を活用できるものとする。ただし、「日本国籍を有する者及び『永住者』」に該当しない者であっても、当該大会年の４月 30 日（冬季大会は前年の４月 30 日）以前から本大会終了時（冬季大会は各競技会終了時）まで継続的に日本に滞在している場合は、本制度を活用できるものとする。なお、やむを得ない事情により、一時的に日本を離れる場合は、総日数の半数を超えて日本で滞在していること。

４　「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。

５　「ふるさと」から参加する選手は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

６　ふるさと選手制度の活用については、原則として、１回につき２年以上連続とし、利用できる回数は２回までとする。

７　参加都道府県は「ふるさと選手」を所定の様式、方法により、当該大会実施要項で定めた参加申込締切期日までに、日本スポーツ協会宛てに提出する。

別記２　「『一家転住等』に伴う特例措置」

転校への特例

１　次の内容をすべて満たすことにより、国内移動選手の制限（国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③）に抵触しないものとする。

⑴　この特例の対象は、「少年種別」への参加者に限る。

⑵　本特例を受けることができるのは、一家転住等やむを得ない理由に限ることとする。
なお「一家転住等」とは概ね次のことを言う。

ア　親の転勤による一家の転居

イ　親の結婚、離婚による一家の転居

ウ　上記以外に、やむを得ない理由による一家の転居

⑶　転居した時点に応じて、以下の手続きを終了していること。

ア　本特例を受けようとする参加者は、下記２⑴の場合は転居元、下記２⑵の場合は転居先が属する都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告すること。

イ　報告を受けた都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体は、下記２⑴の場合は転居先、下記２⑵の場合は転居元が属する都道府県スポーツ協会及び都道府県競技団体に対し、その旨報告し了承を得ること。

２　本特例を受ける当該大会において、参加することができる都道府県は以下のとおりとする。

⑴　転居した時点において、以下に該当する場合は転居元が属する都道府県から参加することができる。

ア　転居先が属する都道府県の代表が既に決定している場合

イ　当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表として既に決定している場合

ウ　当該参加者が、転居元が属する都道府県の代表選考過程にある場合

⑵　転居した時点において、以下に該当する場合は転居先が属する都道府県から参加することができる。

ア　転居元が属する都道府県において、当該大会における都道府県代表の選考が開始されていない場合

別記３　「JOC エリートアカデミーに係る選手の参加資格の特例措置」

公益財団法人日本オリンピック委員会が実施する「JOC エリートアカデミー」に係る選手のうち、下記１に該当する者については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項〔国民スポーツ大会開催基準要項第８項第１号及び第 10 項第４号（参加資格及び年齢基準等）〕及び別記１「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」に関し、次の２～４の特例を適用する。

１　対象者

⑴　少年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーに在籍する者

⑵　成年種別年齢域の選手で JOC エリートアカデミーを修了した者、又は同アカデミーに在籍する者

２　少年種別年齢域の選手の所属都道府県

本特例第１項－⑴に定める少年種別年齢域の選手は、その所属都道府県について、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－2）‐②に定める「居住地を示す現住所」、「学校教育法第１条に規定する学校の所在地」、「勤務地」のほか、卒業小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

なお、同アカデミーへの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を選択することができる。

３　成年種別年齢域の選手の「ふるさと」

本特例第１項－⑵に定める成年種別年齢域の選手は、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」第２項に定める卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県のほか、同アカデミーでの入校時において小学生であった場合には、入校する直前まで通学していた小学校の所在地が属する都道府県を「ふるさと」とすることができる。

４　国内移動選手の制限に係る例外適用

本特例第１項－⑴に定める少年種別年齢域の選手が前回の大会（都道府県大会を含む）と異なる都道府県から参加する場合、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）に抵触しないものとする。

［注］　本特例第１項－⑵に定める成年種別年齢域の選手については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）の規定に従い取り扱うものとする。

５　その他

中央競技団体が国際競技力向上施策として独自に実施するアカデミー事業については、当該中央競技団体からの申請を踏まえ、当該事業の内容が JOC エリートアカデミーに準拠し実施されていることが、公益財団法人日本オリンピック委員会により確認された場合に限り、国民スポーツ大会委員会の決議を経て当該事業を本特例の対象に加えることができる。

別記４　「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

我が国の競技力向上を支援する観点より、一定の競技力を有する選手に対して、「トップアスリートの国民スポーツ大会参加資格の特例措置（以下「本特例」という。）」を下記のとおり定める。

１　特例の対象となる選手

本特例の対象となる選手は、下記の条件のいずれかを満たす者とする。

⑴　第 33 回オリンピック競技大会（2024 年・パリ）に参加した者。

⑵　2026 年４月 30 日時点で、下記のいずれかに該当し、各中央競技団体が本特例の対象として認めた者

ア　JOC オリンピック強化指定選手

イ　各競技（種目）における国内ランキング上位 10 位以内の者

ウ　中央競技団体が定めた強化指定選手

※　強化指定ランクについては、各競技における全日本選手権大会入賞レベル以上のカテゴリーを対象とする。

２　特例の内容

⑴　予選会の免除

本特例の対象となる選手については、都道府県予選会及びブロック大会を経ずに国民スポーツ大会本大会に参加することができるものとする。ただし、ブロック大会実施競技種目・種別においては、当該都道府県代表選手又はチームがブロック大会に参加し、本大会参加枠を獲得している場合とする。

⑵　資格要件（日数要件の緩和）

本特例の対象となる選手が所属都道府県として「居住地を示す現住所」又は「勤務地」を選択する場合は、日数に関する要件を定めないこととし、以下のとおりとする。

ア　居住地を示す現住所

次の要件をいずれも満たすものとする。

(ｱ)　2026 年４月 30 日以前から大会終了時（2026 年 10 月 20 日）まで引き続き、住民票記載の住所に存する都道府県において生活している実態があり、当該都道府県以外（海外を含む）において生活している実態がないこと。

なお、生活の実態については、下記要件により判断する。

ａ　自ら所有する住居、又は自らの名義で住居を賃借していること

ｂ　当該住居に生計を一にする家族と共に住んでいること

ｃ　当該住居の水道光熱費など費用を自ら負担していること

ｄ　当該住居に主要な家財道具が存すること

(ｲ)　合宿、試合等により当該都道府県外で活動を行う場合、当該都道府県を移動の起点としていること。

イ　勤務地

次の要件をいずれも満たすものとする。

(ｱ)　2026 年４月 30 日以前から大会終了時（2026 年 10 月 20 日）まで引き続き、雇用主と雇用契約を締結した上で、当該都道府県内に存する雇用主の会社や事業所等に現実に通勤し、勤務していること。

(ｲ)　当該都道府県内で、競技普及活動等の事業に参加すること。

３　国内移動選手の制限

本特例の対象となる選手の国内移動選手の制限については、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③のとおりとする。

別記５　「東日本大震災に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

１　特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の６県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

２　特例の内容

⑴　特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手及び監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア　2011 年３月 11 日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ　災害が発生しなかったと仮定した場合、2026 年４月 30 日以前から大会終了時（2026 年 10 月 20 日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

⑵　避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア　被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手及び監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第 78 回又は第 79 回大会に当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ｱ)　2011 年３月 11 日時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍していた者であること。

(ｲ)　移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が 2026 年４月 30 日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

［注］　「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出又は学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学している実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場す

ることができる。

イ　本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第79回大会又は第80回大会に参加した者が、第81回大会において、以下のような震災にかかる理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

＜例＞　○　避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○　避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする場合

○　他の都道府県に避難先を移す場合

⑶　避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア　卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地

イ　災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校又は高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2011年度から2012年度（小学校は2015年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者。

別記６　「令和６年能登半島地震に係る選手及び監督の国民スポーツ大会参加資格の特例措置」

１　特例の対象となる被災地域都道府県

震災による被害状況及び影響等を総合的に勘案し、新潟県、富山県、石川県、福井県の４県を本特例の適用対象となる被災地域都道府県（以下「特例対象県」という。）とする。

なお、特例対象県以外の都道府県において対応が必要となった場合は、個別に取り扱うこととする。

２　特例の内容

⑴　特例対象県を所属都道府県とする場合の要件緩和

以下の選手及び監督については、「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たしていなくとも、当該特例対象県から参加することができる。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県における「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」の各要件を満たすことができなくなった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

ア　2024 年１月１日（震災発生時）時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍していた者であること。

イ　災害が発生しなかったと仮定した場合、2026 年４月 30 日以前から当該大会終了時（2026 年 10 月 20 日）まで継続して当該特例対象県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていたと合理的に推測される者であること。

⑵　避難等による移動先の都道府県を所属都道府県とする場合の要件緩和

ア　被災地域からの避難等により、当該特例対象県と異なる都道府県に移動した以下の選手及び監督については、移動先の都道府県から参加することができる。

なお、この場合、第 78 回大会又は第 79 回大会に、当該特例対象県から参加していても、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

【特例の対象者】

被災地域からの避難等、災害の影響によるやむを得ない事情によって、当該特例対象県から移動せざるを得なかった者。

ただし、以下の事項のいずれにも該当していること。

(ｱ)　2024 年１月１日時点において、当該特例対象県内に居住又は勤務していた者。若しくは当該特例対象県内の「学校教育法」第１条に規定する学校に在籍していた者であること。

(ｲ)　移動先の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする要件を満たしていること。

なお、移動が生じた時期が 2026 年４月 30 日以降の場合は、移動先の都道府県の予選会開始までに要件を満たしていることとする。

［注］　「居住地を示す現住所」及び「学校所在地」として参加を希望する者については、当該自治体への住所に関する届出又は学籍に係る要件を満たしていなくとも、それに準ずる公的な証明書類を提出でき、かつ移動先の都道府県に居住あるいは通学してい

る実態を有していると日本スポーツ協会が認めた場合、移動先の都道府県から出場することができる。

イ　本項アを適用して避難等による移動先の都道府県から第79回大会又は第80回大会に参加した者が、第81回大会において、以下のような震災に係る理由により再度都道府県を移動して参加する場合は、国民スポーツ大会開催基準要項細則第３項－⑴－1）－③（国内移動選手の制限）には抵触しないものとする。

＜例＞　○　避難先を離れ、当該特例対象県に戻る場合

○　避難先を離れ、他の都道府県を「居住地を示す現住所」、「学校所在地」又は「勤務地」とする場合

○　他の都道府県に避難先を移す場合

⑶　避難等による移動先の属する都道府県において学校を卒業した場合の「ふるさと」選択要件の緩和

避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者が、成年種別年齢域に達した際、「国民スポーツ大会ふるさと選手制度」を活用して参加する場合、以下のいずれかを「ふるさと」として登録することができる。

ア　卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地

イ　災害の発生した時点で在籍していた小学校、中学校又は高等学校の所在地

なお、本特例を適用して上記イの学校所在地を「ふるさと」として登録した場合についても、卒業小学校、卒業中学校又は卒業高等学校の所在地を「ふるさと」とする場合と同様、一度登録した「ふるさと」は変更できない。

【特例の対象者】

2024年度から2025年度（小学校は2028年度）までに、避難等による移動先の属する都道府県において小学校、中学校又は高等学校を卒業した者。

〔20〕フェンシング競技

1　期　　日　　2026年10月10日（土）から10月13日（火）まで（４日間）

種　別	種　目	10月10日(土)	10月11日(日)	10月12日(月)	10月13日(火)
成年男子	フルーレ	１～２回戦	３回戦～決勝		
	エペ			１～２回戦	３回戦～決勝
成年女子	フルーレ	１～２回戦	準々決勝～決　勝		
	サーブル			１　回　戦	２回戦～決勝
少年男子	フルーレ		１～２回戦	準々決勝～決　勝	
少年女子	フルーレ		１～２回戦	準々決勝～決　勝	

2　会　　場　　むつ市　　むつマエダアリーナ

3　種別（種目）及び参加人員

種　別	監　督	選　手	参加都道府県	小　計	合　計（人）
成年男子	3		47	141	339
成年女子	3		18	54	
少年男子	1	3	18	72	
少年女子	1	3	18	72	

（注）　成年男女の選手は、監督を兼ねる。

4　競技上の規程及び方法

⑴　競技規則は、FIE規則及び公益社団法人日本フェンシング協会の定める競技規則による。

⑵　試合内容は、各種目とも１チーム３名編成の紅白戦による団体戦とする。

⑶　１回戦及び２回戦は、リーグ戦方式、以後はトーナメント方式とする。

⑷　各種別及び各種目とも１～８位決定戦を行う。

5　予選方法

⑴　各都道府県協会は、都道府県大会を実施し、ブロック大会及び本大会に出場する選手を決定する。

⑵　実施要領

ア　都道府県大会は、その主催する支部において、細目を決定し実施すること。

イ　ブロック大会は、その主催する支部が同一ブロック内の支部と協議して本大会に準じて細目を決定し実施すること。

⑶　報告

都道府県大会及びブロック大会とも競技終了後５日以内に試合成績表を必ず公益社団法人日本フェンシング協会宛てに提出すること。

⑷　ブロック大会区分及び代表チーム数は、下記のとおりとする。

ブロック名	都　道　府　県　名	成年女子	少年男子	少年女子
北海道	北海道	1	1	1
東　北	岩手、宮城、秋田、山形、福島	2	3	2
関　東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨	3	3	4
北信越	新潟、長野、富山、石川、福井	2	1	1
東　海	静岡、愛知、三重、岐阜	1	2	1
近　畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	2	2	3
中　国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	2	2	1
四　国	香川、徳島、愛媛、高知	1	1	2
九　州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	3	2	2
開催県	青森	1	1	1
計		18	18	18

６　参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

総則５に定めるもののほか、次による。

監督は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく、公認フェンシングコーチ１、公認フェンシングコーチ３、公認フェンシングコーチ４のいずれかの資格を有していること。

監督・選手は、都道府県大会以前に公益社団法人日本フェンシング協会の会員登録をすませた者とする。

都道府県大会・ブロック大会とそれぞれ異なる種別への参加を認める。但し、選手は都道府県大会に参加している者に限る。

なお、少年種別に参加できる選手には、2011 年４月２日から 2012 年４月１日までの間に生まれた中学３年生を含むものとする。

７　総合成績決定方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に順位を決定する。ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

⑴　競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競　技　得　点
成　年　男　子 成　年　女　子 少　年　男　子 少　年　女　子	成　年　女　子 少　年　女　子	各種目とも１位 24 点、２位 21 点、３位 18 点、４位 15 点、５位 12 点、６位９点、７位６点、８位３点の競技得点を与える。

⑵　参加得点

大会（ブロック大会を含む）に参加した都道府県に 10 点を与える。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

８　表　　彰

⑴　男女総合成績及び女子総合成績第１位から第８位までの都道府県に、表彰状を授与する。

⑵　男女総合成績の第１位の都道府県に、大会会長トロフィーを授与する。

⑶　少年男子、少年女子の各種別及び成年男子・成年女子の各種目の第１位から第８位までに、賞状を授与する。

９　参加申込方法

⑴　所定の Web ページ（国民スポーツ大会参加申込システム）へアクセスし、必要事項を記入の上、所属都道府県スポーツ協会を通じて、2026 年９月３日(木) 午後５時までに申込手続を完了すること。

⑵　締切期限以降は所定の Web ページ（国民スポーツ大会参加申込システム）へアクセスできなくなるので、期限を厳守すること。

⑶　参加申込締切後の選手・監督の変更は、死亡、傷病、傷害、転勤等の特別な場合のみ認めるものとし、その取扱いは次のとおりとする。

ア　提出期限　　2026 年 10 月８日（木）【技術委員会会議前日まで】

イ　提 出 先

(ｱ)　〒160-0013　東京都新宿区霞ヶ丘町４番２号　JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE
公益社団法人日本フェンシング協会
TEL 03-5843-0040　FAX 03-5843-0041

(ｲ)　〒030-8570　青森県青森市長島一丁目１番１号
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会事務局
（青森県　国スポ・障スポ局競技式典課　競技運営グループ）
TEL 017-734-9771　FAX 017-734-8015
E-mail　aomori2026kyougiunei@pref.aomori.lg.jp

(ｳ)　〒035-8686　青森県むつ市中央一丁目８番１号
青の煌めきあおもり国スポ・障スポむつ市実行委員会事務局
（むつ市市民生活部国スポ・障スポ推進課）
TEL 0175-22-1111　FAX 0175-22-5825
E-mail　kokuspo.fencing@city.mutsu.lg.jp

ウ　提出書類

選手変更を証明するものを添付し、文書にて届出をする。なお、提出先の(ｲ)(ｳ)については、原則メールにて提出とする。また、公益財団法人日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、別途、所定の手続きにより参加申込み情報を修正すること。

10　その他

⑴　組合せ抽選会

日　時　　2026 年９月６日（日）　午後１時 00 分
場　所　　JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE　会議室
〒160-0013　東京都新宿区霞ヶ丘町４番２号
公益社団法人日本フェンシング協会事務局
TEL 03-5843-0040　FAX 03-5843-0041

⑵　技術委員会会議

日　時　　2026 年 10 月９日（金）　午後２時 30 分
場　所　　むつマエダアリーナ　サブアリーナ
〒035-0075　むつ市真砂町９番１号

⑶　審判会議

日　時　　2026 年 10 月 9 日（金）　午後 3 時 30 分

場　所　　むつマエダアリーナ　サブアリーナ

〒035-0075　むつ市真砂町 9 番 1 号

⑷　監督会議

日　時　　2026 年 10 月 9 日（金）　午後 4 時

場　所　　むつマエダアリーナ　サブアリーナ

〒035-0075　むつ市真砂町 9 番 1 号

⑸　総合表彰式

日　時　　2026 年 10 月 13 日（火）　午後 1 時

場　所　　むつマエダアリーナ

〒035-0075　むつ市真砂町 9 番 1 号

⑹　用具検査について

ア　試合に使用する用具は、競技会場用具検査室で行う検査に合格し、所定の検査合格証が明示してあるものを使用しなければならない。特に以下の 5 点について安全確保のため FIE 公認用具を適用する。(ユニフォーム上下、プロテクター、ソフトカバー付きチェストプロテクター(フルーレのみ)、マスク)

(ｱ)　FIE 公認マーク付きユニフォーム上下 800N（少年の部は 350N 以上）

(ｲ)　FIE 公認マーク付き半袖付プロテクター 800N

(ｳ)　フルーレについては、FIE 公認ソフトカバー付きチェストプロテクター

(ｴ)　FIE 公認マーク付きマスク　1600N

(ｵ)　2010 年 6 月 13 日付け「競技における事故防止・安全管理について」、2015 年 1 月 8 日付け「マスクの安全基準改定について」、ルール・審判委員会 2018 年 9 月 6 日付け「胸部保護具他に関する規則適用について」、2019 年 9 月 11 日付け「電気サーブル用グローブに関する規定ついて」に準ずる。2024 年 1 月 22 日付け「FIE 用具規定（m）ルール変更に伴う適用について（改訂)」を適用する。

イ　用具検査は、次の日程で行う。試合の前日には必ず検査を受けるようにすること。

検　査　日　時	実　施　種　目	検　査　対　象　用　具
10 月 9 日（金） 12：00～17：00	成年男子・成年女子フルーレ	○剣　（4 本） ○フルーレ・マスク　（2 個） ○エペ・マスク　（2 個） ○サーブル・マスク　（2 個） ○ボディワイヤー　（3 本） ○メタルジャケット　（2 着） ○フルーレ・マスクケーブル　（2 本） ○サーブル・マスクケーブル　（2 本） ○FIE 一体型サーブル用グローブ又は FIE サーブルグローブ＋カフ(2 個)
10 月 10 日（土） 8：00～競技終了	成年男子・成年女子フルーレ 少年男子・少年女子フルーレ	
10 月 11 日（日） 8：00～競技終了	成年男子フルーレ・エペ 成年女子フルーレ・サーブル 少年男子・少年女子フルーレ	
10 月 12 日（月） 8：00～競技終了	成年男子エペ 成年女子サーブル 少年男子・少年女子フルーレ	
10 月 13 日（火） 8：00～競技終了	成年男子エペ 成年女子サーブル	

（注１）　検査対象用具については、過去の合格シール・ゼッケン等すべて取り外しておくこと。

（注２）　ブレードとガードに錆が付いているものは受け付けない。

（注３） マスクについては、安全バンドが付いているものでなければならない。
（注４） フルーレのマスクは、絶縁されたものでなければならない。
（注５） ２日以降の取扱い終了時間は、原則として競技終了時とする。
（注６） 検査対象用具の（　）内は、１人が検査に出せる最大数である。
（注７） 国民スポーツ大会ユニフォーム規程「いかなる形の広告や宣伝活動、コマーシャル等（以下「広告」という。）の表示がない衣服を着用するものとする。
（例：ユニフォーム上・下　メタルジャケット・ストッキング等全て）
横断幕等へのスポンサー名や所属企業名の掲載も禁止とする。

表　彰　式　次　第

1　式典の日時

種目別表彰式① （成年男子フルーレ） （成年女子フルーレ）	【日　時】	2026年10月11日（日） （12：10　開始予定　30分程度）
種目別表彰式② （少年男子フルーレ） （少年女子フルーレ）	【日　時】	2026年10月12日（月） （12：00　開始予定　30分程度）
種目別表彰式③ （成年男子エペ） （成年女子サーブル）	【日　時】	2026年10月13日（火） （13：00　開始予定　30分程度）
総合表彰式 （女子総合） （男女総合）	【日　時】	2026年10月13日（火） （種目別表彰式③に引続き）
閉会式	【日　時】	2026年10月13日（火） （総合表彰式に引続き）

2　式次第

種目別表彰式　【次第】

1　開式通告
2　授与者紹介
3　成績発表（女子）
4　賞状授与（成年女子フルーレ・少年女子フルーレ・成年女子サーブル）
5　成績発表（男子）
6　賞状授与（成年男子フルーレ・少年男子フルーレ・成年男子エペ）
7　閉式通告

総合表彰式・閉会式　【次第】　（10月13日のみ）

8　開式通告
9　女子総合成績発表
10　表彰状授与
11　男女総合成績発表
12　表彰状・大会会長トロフィー授与
13　競技会会長あいさつ
14　歓送のことば
15　国旗、大会旗・協会旗・県旗・市旗儀礼
16　競技会終了宣言
17　閉式通告

むつ市

〔20〕フェンシング競技

競 技 日 程

会場 ＼ 月日			1日目	2日目	3日目	4日目
			10月10日（土）	10月11日（日）	10月12日（月）	10月13日（火）
むつマエダアリーナ	成年男子	フルーレ	１～２回戦 9：00～14：50	３回戦～決勝 9：00～12：00 表彰式 12：10～12：40		
		エペ			１～２回戦 9：00～17：10	３回戦～決勝 9：00～12：00 表彰式・閉会式 13：00～13：50
	成年女子	フルーレ	１～２回戦 11：20～16：00	準々決勝～決勝 9：30～12：00 表彰式 12：10～12：40		
		サーブル			1回戦 14：50～16：00	２回戦～決勝 9：00～12：00 表彰式・閉会式 13：00～13：50
	少年男子	フルーレ		１～２回戦 13：50～16：10	準々決勝～決勝 9：30～11：50 表彰式 12：00～12：30	
	少年女子	フルーレ		１～２回戦 12：40～16：10	準々決勝～決勝 9：00～11：50 表彰式 12：00～12：30	

総合表彰式・閉会式	10月13日（火）13時00分

諸 会 議 日 程

会議名	日時	場所
技術委員会会議	10月9日（金）14時30分	むつマエダアリーナ （サブアリーナ）
審判会議	10月9日（金）15時30分	むつマエダアリーナ （サブアリーナ）
監督会議	10月9日（金）16時00分	むつマエダアリーナ （サブアリーナ）

競 技 日 程 表 （第１日目）

10月10日（土）　成年男子フルーレ（１～２回戦）　成年女子フルーレ（１～２回戦）

時刻＼ピスト	１ピスト	２ピスト	３ピスト	４ピスト	５ピスト	６ピスト	７ピスト	８ピスト
8:00	技術委員会打ち合せ							
8:30	成年男子フルーレ　１回戦（１～８）メンバー表提出							
	審判会議（８:30開始）							
9:00	成年男子フルーレ　１回戦							
30								
10:00	1	2	3	4	5	6	7	8
30								
11:00								
30	成年男子フルーレ　１回戦				成年女子フルーレ　１回戦			
12:00					1	2	3	4
30	9	10	11	12	成年女子フルーレ　１回戦			
13:00					5	6		
30								
	成年男子フルーレ　２回戦							
14:00	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
30								
15:00	成年女子フルーレ　２回戦				成年女子フルーレ　２回戦			
30	①	②			③	④		
16:00								
30								
17:00								

ピスト及び試合開始時刻を変更する場合がありますので、場内放送にご注意ください。

競 技 日 程 表 （第２日目）

10月11日（日）	成年男子フルーレ（３回戦～決勝） 少年男子フルーレ（１～２回戦）	成年女子フルーレ（準々決勝～決勝） 少年女子フルーレ（１～２回戦）

時刻＼ピスト	１ピスト	２ピスト	３ピスト	４ピスト	５ピスト	６ピスト	７ピスト	８ピスト
8:00								
	技術委員会打ち合せ							
8:30	成年男子フルーレ　３回戦　メンバー表提出							
	審判会議（８:30開始）							
9:00	成年男子フルーレ　３回戦							
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
30		成年女子フルーレ　準々決勝 1	2			成年女子フルーレ　準々決勝 3	4	
10:00		成年男子フルーレ　準々決勝 1	2			成年男子フルーレ　準々決勝 3	4	
30		成年女子フルーレ　準決勝 1	2			成年女子フルーレ　予備戦 1	2	
11:00		成年男子フルーレ　準決勝 1	2			成年男子フルーレ　予備戦 1	2	
30	成年男子フルーレ				成年女子フルーレ			
		決勝戦出場チーム入場・紹介						
12:00	５位決定	決勝	３位決定	７位決定	５位決定	決勝	３位決定	７位決定
30	種目別表彰式（成年男子フルーレ・成年女子フルーレ）							
	少年女子フルーレ　１回戦				少年女子フルーレ　１回戦			
13:00	1	2	3		4	5	6	
30								
14:00	少年男子フルーレ　１回戦				少年男子フルーレ　１回戦			
30	1	2	3		4	5	6	
15:00	少年女子フルーレ　２回戦				少年男子フルーレ　２回戦			
30	①	②	③	④	①	②	③	④
16:00								
30								
17:00								

ピスト及び試合開始時刻を変更する場合がありますので、場内放送にご注意ください。

競 技 日 程 表 （第３日目）

10月12日（月）	成年男子エペ（１～２回戦）	成年女子サーブル（１回戦）
	少年男子フルーレ（準々決勝～決勝）	少年女子フルーレ（準々決勝～決勝）

時刻＼ピスト	１ピスト	２ピスト	３ピスト	４ピスト	５ピスト	６ピスト	７ピスト	８ピスト
8:00	技術委員会打ち合せ							
8:30	少年女子フルーレ　準々決勝、成年男子エペ　１回戦（１～４）　メンバー表提出							
	審判会議（８:30開始）							
9:00	成年男子エペ１回戦	少年女子フルーレ　準々決勝		成年男子エペ１回戦	成年男子エペ１回戦	少年女子フルーレ　準々決勝		成年男子エペ１回戦
		1	2			3	4	
30		少年男子フルーレ　準々決勝				少年男子フルーレ　準々決勝		
		1	2			3	4	
10:00		少年女子フルーレ　準決勝				少年女子フルーレ　予備戦		
	1	1	2	2	3	1	2	4
30		少年男子フルーレ　準決勝				少年男子フルーレ　予備戦		
		1	2			1	2	
11:00								
30	少年男子フルーレ				少年女子フルーレ			
		決勝戦出場チーム入場・紹介						
	５位決定	決勝	３位決定	７位決定	５位決定	決勝	３位決定	７位決定
12:00	種目別表彰式（少年男子フルーレ・少年女子フルーレ）							
30	成年男子エペ　１回戦							
13:00	5	6	7	8	9	10	11	12
30								
14:00								
30								
15:00	成年女子サーブル　１回戦				成年女子サーブル　１回戦			
30	1	2	3		4	5	6	
16:00	成年男子エペ　２回戦							
30	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
17:00								

ピスト及び試合開始時刻を変更する場合がありますので、場内放送にご注意ください。

競 技 日 程 表 （第４日目）

10月13日（火）　　成年男子エペ（３回戦～決勝）　　成年女子サーブル（２回戦～決勝）

時刻＼ピスト	１ピスト	２ピスト	３ピスト	４ピスト	５ピスト	６ピスト	７ピスト	８ピスト
8:00	技術委員会打ち合せ							
8:30	成年男子エペ　３回戦（（１）～（４））、成年女子サーブル　２回戦　メンバー表提出							
	審判会議（８:30開始）							
9:00	成年男子エペ ３回戦 (1)	成年女子サーブル　２回戦		成年男子エペ　３回戦 (2)	(3)	成年女子サーブル　２回戦		成年男子エペ ３回戦 (4)
30	成年男子エペ ３回戦 (5)	①	②	成年男子エペ　３回戦 (6)	(7)	③	④	成年男子エペ ３回戦 (8)
10:00		成年男子エペ　準々決勝 1	2			成年男子エペ　準々決勝 3	4	
30		成年女子サーブル　準々決勝 1	2			成年女子サーブル　準々決勝 3	4	
11:00	成年男子エペ 予備戦 1	成年男子エペ　準決勝 1	2	成年男子エペ 予備戦 2	成年女子サーブル 予備戦 1	成年女子サーブル　準決勝 1	2	成年女子サーブル 予備戦 2
30	成年男子エペ				成年女子サーブル			
		決勝戦出場チーム入場・紹介						
12:00	５位決定	決勝	３位決定	７位決定	５位決定	決勝	３位決定	７位決定
30								
13:00	種目別表彰式（成年男子エペ・成年女子サーブル） 総合表彰式　・　閉会式							
14:00								
30								
15:00								
30								
16:00								
30								
17:00								

ピスト及び試合開始時刻を変更する場合がありますので、場内放送にご注意ください。

アップ場・練習会場開設時間

開　設　日	アップ場	練習場
	むつマエダアリーナ サブアリーナ	眞心堂ウェルネスパーク しもきた克雪ドーム
10 月 9 日（金）	監督会議のため使用禁止	10：00～17：00
10 月 10 日(土)	８：00～競技終了まで	８：00～競技終了まで
10 月 11 日(日)	８：00～競技終了まで	８：00～競技終了まで
10 月 12 日(月)	８：00～競技終了まで	８：00～競技終了まで
10 月 13 日(火)	８：00～競技終了まで	８：00～競技終了まで

【注意事項】

1　上記の開設時間を厳守してください。
2　アップ場及び練習会場以外での練習は禁止です。
3　自由練習としますが､混み合っている場合は､お互いに譲り合って使用してください。
4　10 月 9 日（金）については、12:00～17:00 まで競技会場での練習を許可します。
　審判器の使用は禁止です。
5　練習会場のむつマエダアリーナ入場の際にはＡＤカードの確認があります。必ず着用してください。
6　水分補給時を除き飲食禁止、土足厳禁です。飲料等をこぼした場合は、必ず拭き取ってください。またフロアの上で物を引きずらないでください。
7　用具やゴミを放置しないでください。
8　用具をアップ場に放置しないでください。
9　剣の曲がりを直す際には、剣身修正板を使用してください。
10　トレーナーが施術する際に使用するマッサージベッドについては、眞心堂ウェルネスパークしもきた克雪ドームでのみ使用を許可します。人工芝の上での使用は禁止です。
11　荷物の置き帰りをする際は、しもきた克雪ドームのみを使用してください。
12　貴重品については、各自で責任を持って管理してください。
13　施設内は、全て禁煙です。屋外の喫煙所を利用してください。

第 80 回国民スポーツ大会フェンシング競技について

1　競技運営方法は、「第 80 回国民スポーツ大会フェンシング競技実施要項」による。

2　競技規則・種目及び参加人数

（1） 成年男子　監督兼選手 1 名　選手 2 名（フルーレ、エペ）

（2） 成年女子　監督兼選手 1 名　選手 2 名（フルーレ、サーブル）

※成年男子・成年女子の監督は、選手を兼ねる。

（3）少年男子　監督 1 名　選手 3 名（フルーレ）

（4）少年女子　監督 1 名　選手 3 名（フルーレ）

3　競技上の規則及び方法

（1）　競技規則は、F.I.E 規則及び(公社)日本フェンシング協会の定める競技規則を準用する。

※ビデオ判定システムは準々決勝より導入する。

両チームの選手は 1 試合（5 本勝負）につき、1 回のビデオ判定の要請が許可される。

選手のビデオ判定の要求が通った場合、選手のビデオ判定の要請はカウントされない。

選手のビデオ判定の要求が通らなかった場合、判定の要請はカウントされ、その後選手は要請できなくなる。

（2） 試合方法は、各種目とも 1 チーム 3 名編成の紅白戦による団体戦とする。

（3） 1 回戦及び 2 回戦は、3 チーム～4 チームによるリーグ戦を行い、それぞれの回戦における全試合の成績による上位チームが 2 回戦及び 3 回戦に進出する。

3 回戦以降はトーナメント方式とし、1 ～8 位決定戦を行う。

（4） 試合時間は、全種目 3 分間実動とする。

（5） 全種目 5 本勝負とし、片方の選手がトゥシュを 5 本先取したとき、または、有効な試合時間が 3 分経過したときに終了する。その時点でトゥシュを多くとっている選手が勝者となる。記録は 5 本先取したとき、勝者には V、敗者にはその時点での突数のみを記す。

※規定時間終了時に同点の場合は、次により勝者を決定する。

①アドヴァンテージ決定のための抽選の後、1 分間を実動限度として 1 本勝負を行う。

この間に勝者が決定しない場合は、アドヴァンテージを有する選手が勝者となる。

記録は勝者には V の後に同点時の突数を記し、敗者には同点時の突数のみを記す。

②1 本勝負で勝者が決定した場合の記録は勝者には V の後に同点時の突数に 1 本を加えた突数、敗者には同点時の突数を記す。

③エペにおいては、4 - 4 からのクー・ドゥブル及び 3 分のタイムアップ後のクー・ドゥブルは記録しない。

（6） 1 回戦及び 2 回戦の次回戦への進出は、全試合の成績に基づき次の順位により決定される。

①チーム勝数の多いチームを上位とする。

②チーム勝率が高いチームを上位とする。

③チーム勝数が同一の場合は、個人勝数が多いチームを上位とする。

④個人勝数も同一の場合は、チーム全部の突数（TD）と被突数（TR）から計算した TD―TR 指数の高いチームを上位とする。

⑤上記が全て同じ場合はその順位を同等とする。もし、チーム間の差異が必要な順位の場合は、監督が指名する代表者 1 名によるバラージを行う。

（7）トーナメントの試合は、いずれか一方のチームが 2 勝した時点で試合を終了する。

（8）ベンチは、そのプールの中の若い番号のチームがプレジダンの右手側に位置する。トーナメントの場合は表の上側を若い番号とする。

（9）各プール内の試合順序は、次のとおりとする。

①3 チームプール

1 － 2、3―第 1 試合の敗者、3―第 1 試合の勝者

②4 チームプール

1 － 4、2 － 3、1 － 3、2 － 4、3 － 4、1 － 2

※プール内の番号（No.）は組み合わせ抽選会時にコンピューター抽選により決定する。

4　組合せ決定方法

組合せの決定方法は、次に定めるところによる。

なお、1 回戦の組合せ抽選は、（公財）日本スポーツ協会代表と（公社）日本フェンシング協会代表により、JSOS 会議室において 9 月 6 日に行われた。

（1） 成年男子フルーレは、第 79 回競技会（大津市）の第 8 位までの都道府県をシードとする。

（2） 成年男子エペは、第 78 回競技会（佐賀市）の第 8 位までの都道府県をシードする。

（3） 成年女子フルーレ・少年男子・少年女子は、第 79 回競技会（大津市）の第 8 位までの都道府県で今競技会に出場している上位 6 チームまでをシードする。

ただし、第 79 回競技会（大津市）第 8 位までの都道府県で今競技会に出場しているチームが 5 チーム以下の場合は、該当数までしかシードを行わない。

（4） 成年女子サーブルは、第 78 回競技会（佐賀市）の第 8 位までの都道府県で今競技会に出場している上位 6 チームまでをシードする。

ただし、第 78 回競技会第 8 位までの都道府県で今競技会に出場しているチームが 5 チーム以下の場合は該当数までしかシードを行わない。

（5）各種別・各種目とも、1 回戦は同一ブロック内の対戦は行わない。

（6）上記以外は、無差別抽選とする。

（7）2 回戦については、1 回戦の成績に基づき、技術委員会において決定する。ただし、この組合せに関しては同一ブロック及び 1 回戦での対戦があっても一切考慮しない。

（8）3 回戦については、2 回戦の成績に基づき、技術委員会において決定する。ただし、この組合せに関しては同一ブロック及び 1 ・ 2 回戦での対戦があっても一切考慮しない。

※シード順位に関しては、次の優先順位により決定する。

①チーム勝率

②総個人勝率（総勝数÷総試合数）

③総突数率（総突数÷総被突数）
④①～③が全て同じ場合は、1 回戦組合せシード順（含む抽選順位）の高いチームを上位とする。

5　注意事項

（1） 電気剣・ボディーコード・メタルジャケット等は故障のないようによく整備し、試合前に必ず用具検査を行うこと。

（2） フルーレ・エペについては、主催者の用意する「ゼッケン」をマスクに貼り付けて出場すること。
サーブルについては、主催者の用意する「ゼッケン」をユニフォームの後足大腿部に縫い付けて出場すること。
また、ユニフォーム等に企業名等の貼り付け等を認められないので、外せない場合は見えないよう対応すること。

（3） 組合せ及び試合日程、時間、ピストの変更など DT からの連絡事項は、DT 掲示板によって行う。（場内放送ともども十分注意すること。）

（4） 競技開始時間が早くなることがあるので、選手は競技開始予定時間 1 時間前に会場に到着していること。

（5） コールは、競技開始予定時間の 30 分前に行う。

（6） 試合開始 15 分前までに、競技会場の選手待機所に試合のできる状態で待機すること。
なお、監督については、AD カードを必ず着用すること。

（7） 女子選手は、T シャツの上に強固な素材による「前胸部保護具」を着用し、さらに胸当て（布製プロテクター）を着用すること。

（8） 試合開始前、ピストにて審判員がユニフォームの点検を実施する。

（9） 「メンバー表」提出後、試合が始まるまでの間は、競技会場の選手待機所で待機すること。

(10) 競技会場フロア及びピスト席には、当該選手・監督以外は入場できない。

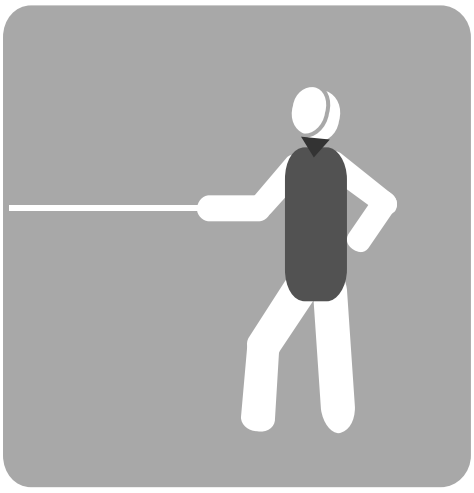
(11) 出場都道府県のチーム名プレートはピスト委員が掲示する。

(12) フェンシングバッグ等は、ピスト選手席の後方に整理整頓して置くこと。また、貴重品等は各自で管理すること。

(13) 競技会場、アップ場及び練習会場では、原則飲食禁止。ただし、試合や練習時の水分補給については特別に許可する。飲料等をこぼした場合は拭き取ること。

(14) 参加選手の所属校、クラブ等の横断幕を競技会場内に掲出することはできない。

Ｆｌｅｕｒｅｔ（フルーレ）



［剣の重さ　　５００ｇ以下］
［剣の全長　　１１０cm以下］
［ガードから剣先まで　　９０cm以下］
［ガードの直径　　１２cm以下］

剣先には５００ｇの強さのバネが入っていて、これ以上の力で突くとランプが点灯します。剣はしなやかで、昔、剣先に色のついたポイントをつけていたため、フランス人はこの種目を花（Fleure:フルール）にたとえたことから、「フルーレ」という名前が生まれました。

■ 部分が有効面

フルーレは、３種目の競技のうち一番基本的となるもので、突きだけを用います。

昔、まだ剣術の練習に真剣を使っていた頃（マスクもなかった)、危険を避けるため約束事を決めました。それは、相手が攻撃をしてきたら、その剣を払ってからでなければ反撃してはいけないという決め事です。この練習のための技術がスポーツ化したものがフェンシングです。

フルーレでは「攻撃をするためには、まず腕を伸ばす」ことから始まり「攻撃されれば、相手の剣を完全に払いのけて攻撃」をしなければなりません。この攻撃と反撃の剣と剣の渡り合いが、フルーレの最大の見どころといえるでしょう。

フランスでは、この剣と剣の攻防をPhrase d’arme：フラーズ・ダ・ルム（剣と剣の旋律）と表現するほどです。

フルーレには有効面と無効面があり、有効面は金属繊維で出来ているジャケットを着用した部分（頭・両足・両腕を除いた胴体部分すべて）とマスクの一部（ビブ）です。その部分を突くと突いた選手側の「赤」または「緑」の色ランプが点灯し、突いた選手の得点が入ります。無効面を突くと、「白」のランプが点灯します。

両方のランプがほとんど同じに点灯した場合などは、試合規則によってどちらかの攻撃が有効であったか、あるいは「同時攻撃」であったかを、主審が判定します。

フェンシング競技組合せ表

【 成年男子フルーレ 】

1回戦

1

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR
群馬県	1							
岩手県	2							
岐阜県	3							

2

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
栃木県	1								
山口県	2								
青森県	3								
大阪府	4								

3

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
愛媛県	1								
福岡県	2								
京都府	3								
山形県	4								

4

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
石川県	1								
大分県	2								
山梨県	3								
島根県	4								

5

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
北海道	1								
愛知県	2								
佐賀県	3								
長野県	4								

6

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
高知県	1								
福井県	2								
宮城県	3								
埼玉県	4								

7

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
富山県	1								
東京都	2								
広島県	3								
熊本県	4								

8

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
奈良県	1								
福島県	2								
茨城県	3								
長崎県	4								

9

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
沖縄県	1								
徳島県	2								
和歌山県	3								
岡山県	4								

10

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
静岡県	1								
神奈川県	2								
滋賀県	3								
鹿児島県	4								

11

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
秋田県	1								
宮崎県	2								
千葉県	3								
兵庫県	4								

12

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
香川県	1								
鳥取県	2								
三重県	3								
新潟県	4								

※V：団体勝数　　VI：個人勝数　　TD：突数　　TR：被突数

フェンシング競技組合せ表

【 成年男子フルーレ 】

2回戦

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
①		1							
		2							
		3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
②		1							
		2							
		3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
③		1							
		2							
		3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
④		1							
		2							
		3							

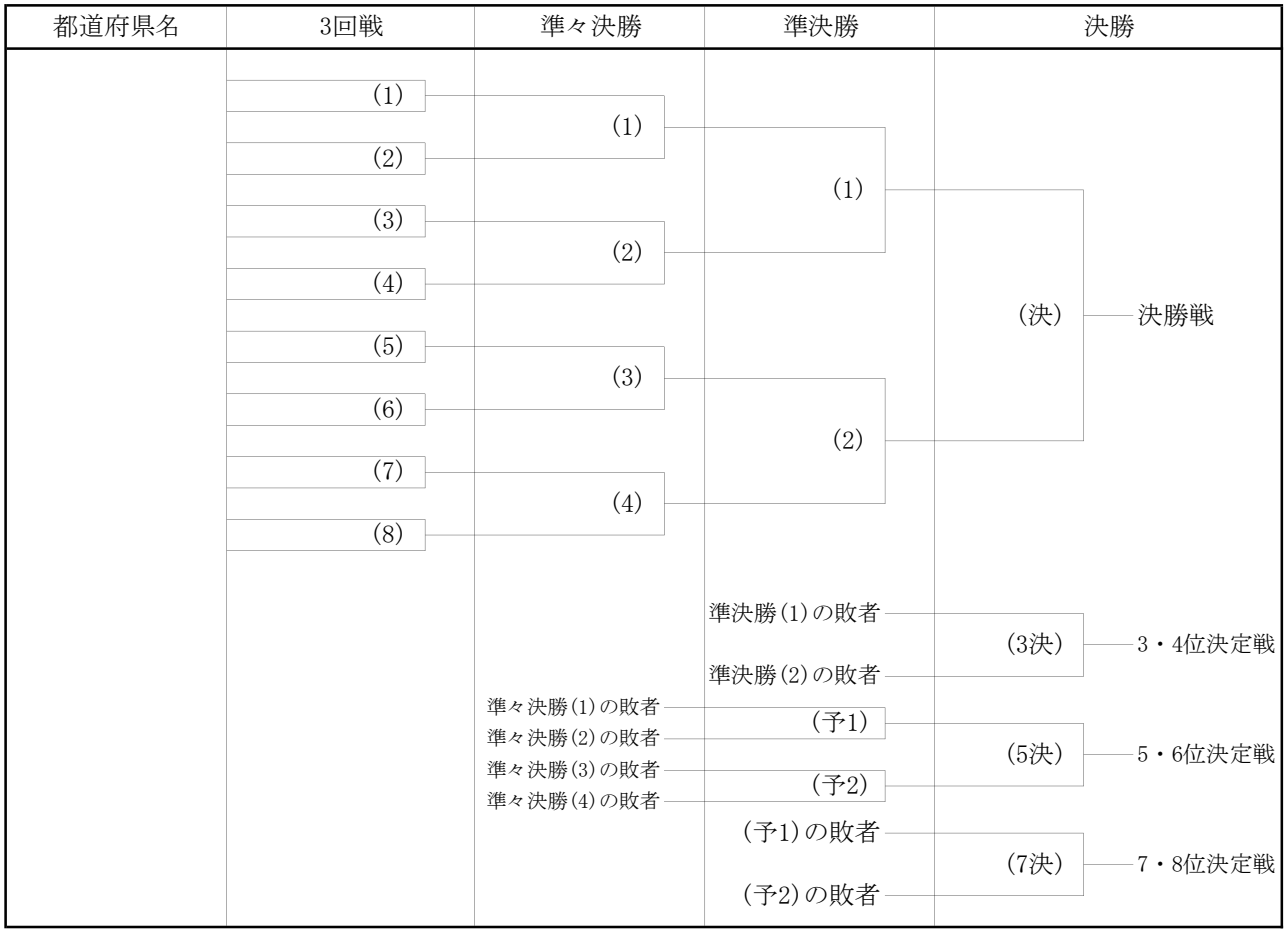
	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
⑤		1							
		2							
		3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
⑥		1							
		2							
		3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
⑦		1							
		2							
		3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
⑧		1							
		2							
		3							

※Ｖ：団体勝数　　ＶＩ：個人勝数　　ＴＤ：突数　　ＴＲ：被突数



フェンシング競技組合せ表

【 成年女子フルーレ 】

1回戦

1

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
大阪府	1							
佐賀県	2							
東京都	3							

2

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
長野県	1							
大分県	2							
岐阜県	3							

3

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
北海道	1							
埼玉県	2							
宮城県	3							

4

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
和歌山県	1							
岩手県	2							
愛媛県	3							

5

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
鹿児島県	1							
山口県	2							
福井県	3							

6

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
青森県	1							
千葉県	2							
鳥取県	3							

2回戦

①

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
	1							
	2							
	3							

②

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
	1							
	2							
	3							

③

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
	1							
	2							
	3							

④

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
	1							
	2							
	3							

※Ｖ：団体勝数　　ＶＩ：個人勝数　　ＴＤ：突数　　ＴＲ：被突数

都道府県名	準々決勝	準決勝	決勝
	(1)	(1)	(決) 決勝戦
	(2)		
	(3)	(2)	
	(4)	準決勝(1)の敗者	(3決) 3・4位決定戦
		準決勝(2)の敗者	
	準々決勝(1)の敗者	(予1)	(5決) 5・6位決定戦
	準々決勝(2)の敗者		
	準々決勝(3)の敗者	(予2)	
	準々決勝(4)の敗者	(予1)の敗者	(7決) 7・8位決定戦
		(予2)の敗者	

フェンシング競技組合せ表

【 少年男子フルーレ 】

1回戦

1

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
福 島 県	1							
京 都 府	2							
岐 阜 県	3							

2

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
香 川 県	1							
和歌山県	2							
愛 知 県	3							

3

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
島 根 県	1							
東 京 都	2							
岩 手 県	3							

4

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
長 野 県	1							
秋 田 県	2							
鹿児島県	3							

5

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
青 森 県	1							
山 口 県	2							
神奈川県	3							

6

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
佐 賀 県	1							
北 海 道	2							
埼 玉 県	3							

2回戦

①

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
	1							
	2							
	3							

②

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
	1							
	2							
	3							

③

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
	1							
	2							
	3							

④

都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
	1							
	2							
	3							

※Ｖ：団体勝数　　ＶＩ：個人勝数　　ＴＤ：突数　　ＴＲ：被突数

都道府県名	準々決勝	準決勝	決勝
	(1)	(1)	(決) 決勝戦
	(2)		
	(3)	(2)	
	(4)	準決勝(1)の敗者	(3決) 3・4位決定戦
		準決勝(2)の敗者	
	準々決勝(1)の敗者	(予1)	(5決) 5・6位決定戦
	準々決勝(2)の敗者		
	準々決勝(3)の敗者	(予2)	
	準々決勝(4)の敗者	(予1)の敗者	(7決) 7・8位決定戦
		(予2)の敗者	

フェンシング競技組合せ表

【 少年女子フルーレ 】

1回戦

	都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR
1	北海道	1							
	岐阜県	2							
	大阪府	3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR
2	島根県	1							
	鹿児島県	2							
	埼玉県	3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR
3	青森県	1							
	大分県	2							
	栃木県	3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR
4	福井県	1							
	京都府	2							
	徳島県	3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR
5	秋田県	1							
	香川県	2							
	群馬県	3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR
6	和歌山県	1							
	宮城県	2							
	東京都	3							

2回戦

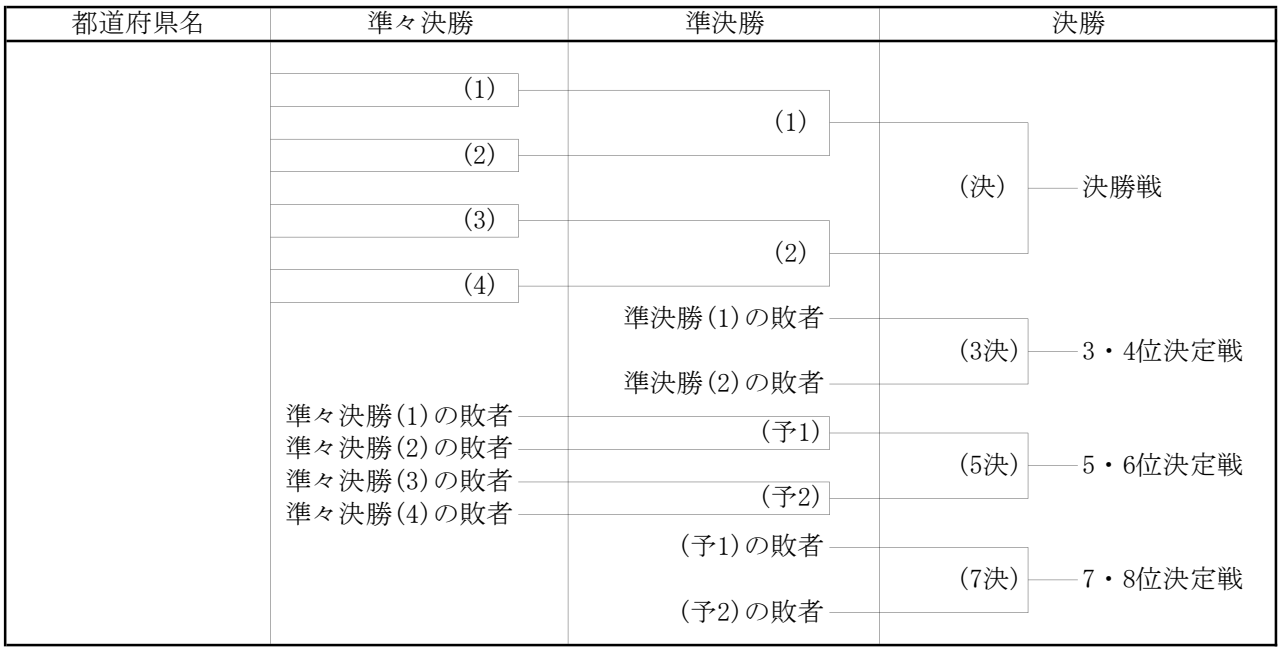
	都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR
①		1							
		2							
		3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR
②		1							
		2							
		3							

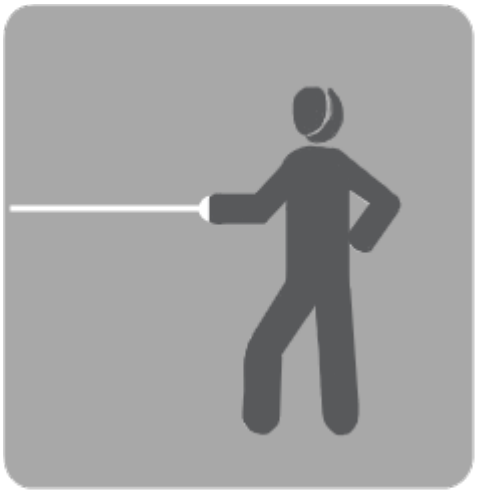
	都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR
③		1							
		2							
		3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR
④		1							
		2							
		3							

※Ｖ：団体勝数　　ＶＩ：個人勝数　　ＴＤ：突数　　ＴＲ：被突数



Ｅｐｅｅ（エペ）



全身が有効面

［剣の重さ　　７７０ｇ以下］
［剣の全長　　１１０cm以下］
［ガードから剣先まで　９０cm以下］
［ガードの直径　　１３．５cm以下］

剣先には７５０ｇの強さのバネが入っていて、これ以上の力で突くとランプが点灯します。ラピエールという決闘用剣の流れを受け継ぎ、昔ながらの三角形の剣身を持った、風格のある形をしています。

17世紀中頃、剣先で相手を突くだけの「エペ」という剣（術）が生まれました。それ以前は「ラピエール」という、「切って」も「突いて」もよい剣が使用されていました。エペの出現以来、急速に普及し、ラピエールにとって代わる剣術となりました。

エペは、正式の決闘武器として行われたものが競技化したもので、全身（頭から爪先）どこを突いても有効となり、色ランプがつき、突いた選手に得点が入ります。しかし、電気審判器の点灯する機能に１/25秒のタイム差がセットされていて、このタイム差以内で両選手が「同時突き（Coup Double:クードゥーブル)」をすると両方の色ランプが点灯し、両選手に１ポイントずつ得点が与えられます。

全身が有効面で、また１/25秒差以内の素早い突きが要求されるため、試合運びの中に両選手の張り詰めた気迫が感じられるところがみどころといえるでしょう。

西洋の決闘では、自分の名誉を守るために行うので、相手に血を流させたら終わりです。その時、自分も血を流したら相打ちになるので、エペには相打ちの判定があるのです。

フェンシング競技組合せ表

【 成年男子エペ 】

1回戦

1

都道府県名	No.	1	2	3	V	VI	TD	TR
宮 城 県	1							
神奈川県	2							
福 岡 県	3							

2

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
千 葉 県	1								
滋 賀 県	2								
山 口 県	3								
長 野 県	4								

3

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
大 阪 府	1								
高 知 県	2								
埼 玉 県	3								
石 川 県	4								

4

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
大 分 県	1								
福 島 県	2								
茨 城 県	3								
岐 阜 県	4								

5

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
秋 田 県	1								
栃 木 県	2								
京 都 府	3								
愛 知 県	4								

6

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
北 海 道	1								
沖 縄 県	2								
兵 庫 県	3								
新 潟 県	4								

7

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
富 山 県	1								
長 崎 県	2								
岩 手 県	3								
岡 山 県	4								

8

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
佐 賀 県	1								
山 形 県	2								
三 重 県	3								
愛 媛 県	4								

9

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
東 京 都	1								
鳥 取 県	2								
熊 本 県	3								
徳 島 県	4								

10

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
山 梨 県	1								
広 島 県	2								
奈 良 県	3								
青 森 県	4								

11

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
福 井 県	1								
和歌山県	2								
鹿児島県	3								
静 岡 県	4								

12

都道府県名	No.	1	2	3	4	V	VI	TD	TR
島 根 県	1								
香 川 県	2								
宮 崎 県	3								
群 馬 県	4								

※Ｖ：団体勝数　　ＶＩ：個人勝数　　ＴＤ：突数　　ＴＲ：被突数

フェンシング競技組合せ表

【 成年男子エペ 】

2回戦

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
①		1							
		2							
		3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
②		1							
		2							
		3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
③		1							
		2							
		3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
④		1							
		2							
		3							

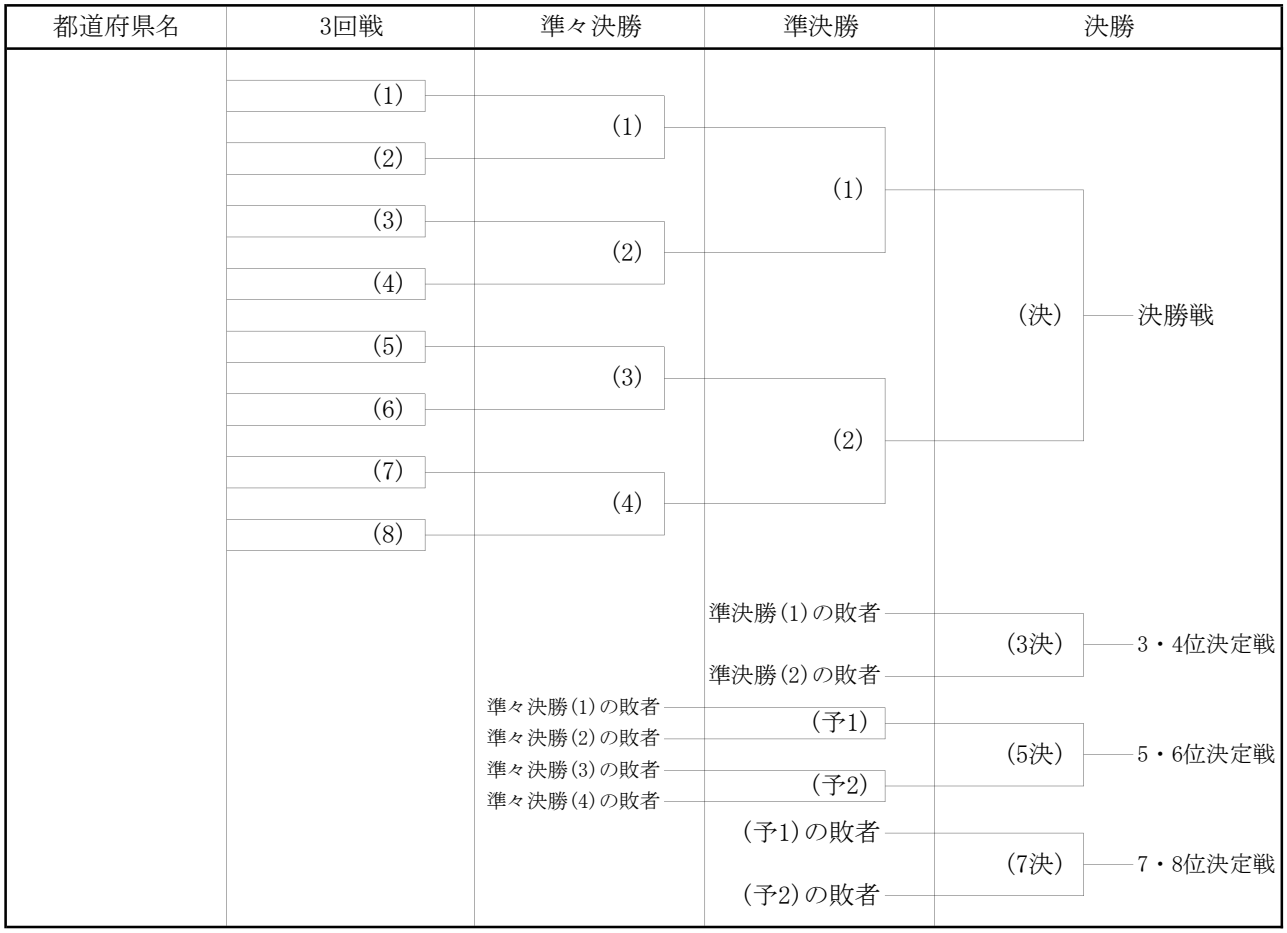
	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
⑤		1							
		2							
		3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
⑥		1							
		2							
		3							

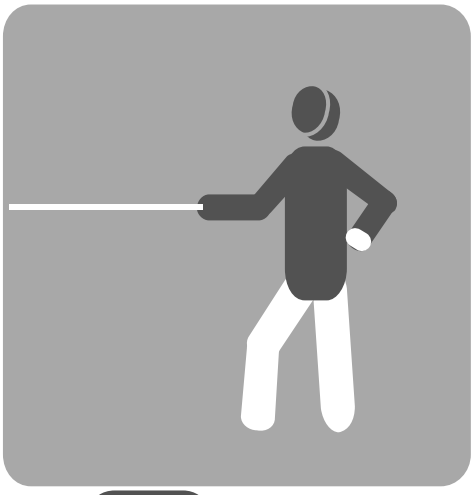
	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
⑦		1							
		2							
		3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
⑧		1							
		2							
		3							

※Ｖ：団体勝数　　ＶＩ：個人勝数　　ＴＤ：突数　　ＴＲ：被突数



Ｓａｂｒｅ（サーブル）



部分が有効面

［剣の重さ　　５００ｇ以下］
［剣の全長　　１０５cm以下］
［ガードから剣先まで　８８cm以下］
［ガードの直径　縦１５cm以下］
　　横１４cm以下］
［ガードの深さ　　１５cm以下］

剣身は扁平で刃がついており、いわゆる「みね」の部分も剣先１/３が裏刃になっていて、その「刃」の部分で切れば有効となります。

サーブルは、他の２種目とは異なり、その昔、ウラル山脈地域の騎馬民族が行っていた剣術で、９世紀に今のハンガリーに根を降ろしました。フランス等西ヨーロッパ諸国ではあまり普及しませんでしたが、馬上の剣術として19世紀にイタリアにおいて、現在見られる形式が出来あがりました。

馬上で行う軍刀術がスポーツ化したもので、他の２種目と異なり切りが主体ですが、突きもできる競技です。従来は男子だけが行っていましたが、世界選手権大会でも女子の部が開催されるようになり、2001年全日本フェンシング選手権大会（高知大会）から正式に女子の部も行われています。

サーブルにも、有効面と無効面があります。有効面は選手の腰から上の部分で、頭・両腕も含まれます。これは、昔、戦いのときに相手の馬を傷つけることを避けるために、腰から下は攻めなかったことから来ています。

判定は、電気審判器を用いています。フルーレ同様細かな規則が決められているため、攻撃権の取り合い、防御の方法等が判定に影響します。

サーブルのおもしろさは、激しい動き、そして豪快な切り合いにあります。

フェンシング競技組合せ表

【 成年女子サーブル】

1回戦

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
1	佐賀県	1							
	岐阜県	2							
	青森県	3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
2	宮城県	1							
	東京都	2							
	北海道	3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
3	大阪府	1							
	山口県	2							
	長野県	3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
4	大分県	1							
	和歌山県	2							
	鳥取県	3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
5	埼玉県	1							
	福井県	2							
	鹿児島県	3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
6	岩手県	1							
	愛媛県	2							
	千葉県	3							

2回戦

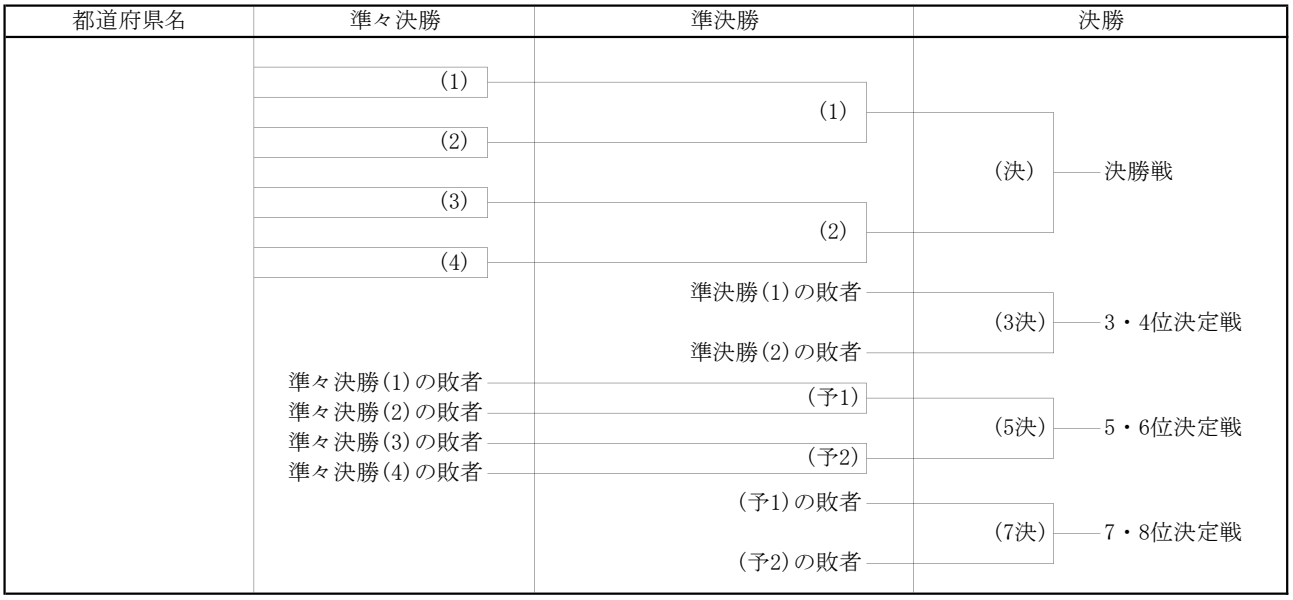
	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
①		1							
		2							
		3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
②		1							
		2							
		3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
③		1							
		2							
		3							

	都道府県名	No.	1	2	3	V	ＶＩ	ＴＤ	ＴＲ
④		1							
		2							
		3							

※Ｖ：団体勝数　　ＶＩ：個人勝数　　ＴＤ：突数　　ＴＲ：被突数



フェンシング用語

一般的なことがら

1　エスクリム

フランス語でフェンシングのこと。

フェンシングでは、フランス語が公用語として使用されており、近年、英語、スペイン語も公用語に加わりました。

2　プール

リーグ形式の総当たり戦のこと。

3　マッチ

2選手間の対戦で記録を取る場合、マッチと言います。

4　ランコントル

異なるチームの選手間による対戦(チーム・マッチ)をランコントルと言います。

5　ピスト

競技用コートのこと。大会では8ピストが設置されます。（幅1.5m～2.0m、長さ14m、予備ゾーン4mを入れて計18mのピストが多い）

6　エリミナション・ディレクト

トーナメント形式の試合のこと。

7　ファイナル

決勝戦のこと。

8　ディレクトワール・テクニーク（DT）

技術委員会のこと。

競技を実際に運営していく上での最高機関で、大会では技術委員の合議によって、試合の組合せ、競技の進行、審判員の指名、ルール上の事、ルール以外の問題などが決定されます。

9　プレジダン・ド・ジュリー

主審のこと。

主審は、マッチの前に選手の武器・服装・用具や審判器等を検査します。そして、マッチを指揮し、選手に違反があれば罰し、またマッチをフルーレ・エペ・サーブルそれぞれのルールに従って判定し、トウシュを与えます。最後にマッチの勝敗を決めます

10　アセスール

副審のこと。

決勝戦においては、主審だけでなく2名の副審が義務付けられています。武器を持っていない手や腕の使用、正当な有効面の代用、ピストの側面や後方への踏み出し、エペで床上にて得点したトゥシュ、又は競技規則に規定されているその他の違反を監視します。

11　略称

V「勝ち（ビクトワール）」、D「負け（デフェット）」、TD「突数（突いた数。トゥシュ・ドネ）」、TR「被突数（突かれた数。トゥシュ・ルウス）」

12　バラージュ

上位進出者を決めるための決定戦のこと。

試合の中での主審の言葉について

1　サリュー

「挨拶せよ」という意味で、選手は試合の前後に相手以外に審判、観客席の方向に剣で挨拶をすることが義務付けられています。

2　アン・ガルド

試合を始めるとき主審は「アン・ガルド」（構えて）と号令をかけます。そのあと、「プレ？」（用意はいいか？）と聞きます。それに対して選手は「ウィ（はい）」か「ノン（いいえ）」の返答をします。選手から「ウィ」の返答があるかノンの返答がない限り、主審は「アレ」と言います。意味は「始め」です。また、試合を止めるときに、主審は「アルト」と言います。意味は「止め」です。

3　トゥシュ

「突き」という意味です。突きを受けた選手側に手でトゥシュ（以前はトゥシェ）を示します。

4　ノン

トゥシュが無いこと。

5　ポアン

得点を挙げた選手側の手を上にあげて1得点を示します。

6　ノン・ヴァラブル

「無効面」の意味で、例えばフルーレで突きが無効面に入ると白ランプがつき、得点にはならず、その後の全ての突きが無効になります。

7　アタック・シミュルタネー

双方の選手が「同時に攻撃した」という意味で、フルーレとサーブルの場合は、双方に色ランプがついても得点にはなりません。ただし、エペの場合は「クー・ドゥブル」（同時突き）と言って、双方に1点ずつ得点が加算されます。

8　クー・ドゥブル

「同時にトゥシュした」という意味でフルーレ、サーブルではルールに基づいてどちらに優先権があるか判定します。エペでは双方に1点ずつ得点が加算されます。

9　リニュ

フルーレ・サーブルでポアンが相手の有効面を脅かしている状態。攻撃者が攻撃する時はあらかじめ相手の剣を排除してから始めなければなりません。以前はポアント・アン・リニュー、その前はアン・リニューといっていました。

10　パド・トゥシュ

「両者に得点になるトュシュがないこと」を意味します。

11　シェル・ラ・プレパラシオン

アタック側の準備動作中になされた相手のアタックやアレの動作。審判は腕を曲げた動作で（以前のノン・コレクト）表します。

12　コル・ア・コル

「身体と身体が接触した」という意味で、フルーレ・サーブルでは、試合を止めなければなりません。また、暴力や乱暴な行為がなければ、違反にも罰則にもなりません。

13　パラード

相手の攻撃を剣で防御すること。その後の動作を無効にするためには腕を引くことなく、直ちに行わねばなりません。

14　リポスト

パラードに次ぐ攻撃のこと。

15　アヴァン・タレ

「始めの合図の前に起こした動作」という意味で、たとえトゥシュが入ったとしても得点にならず、無効になります。

16　アプレ・アルト

「止めの合図の後に起こした動作」という意味で、たとえトゥシュが入ったとしても得点にはならず、無効になります。

17　ヴァンカー

「勝利者」という意味で、試合が終了すると審判が勝利した方の選手に向けて、手を挙げてヴァンカーと勝利者を決定しスコアを言います。

審判員のジェスチャーと号令



選手にアン・ガルドのポジションを
とらせるために

選手が準備ができているか知るために

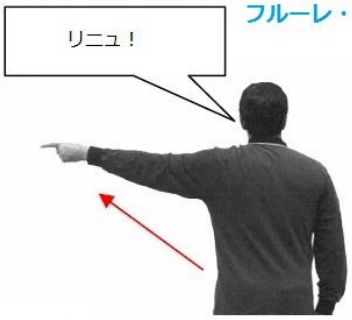
試合を開始または再開させるために



審判員の右側の選手が原因でトゥシュ前に試合を止めるため

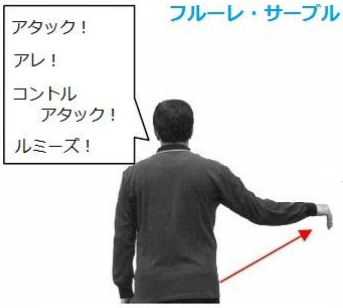
有効面または無効面にトゥシュがあった場合は手を挙げずに
号令のみ

フルーレ・サーブル



右側の選手による左側の選手への
ポアント・アン・リニュ

フルーレ・サーブル



審判員の右側の選手によるアタックまたは
アレ（コントルアタック）



審判員の左側にいる選手が
トゥシェを宣言される



審判員の右側にいる選手に
1ポイントが与えられる

エペのみ



両選手へトゥシェ

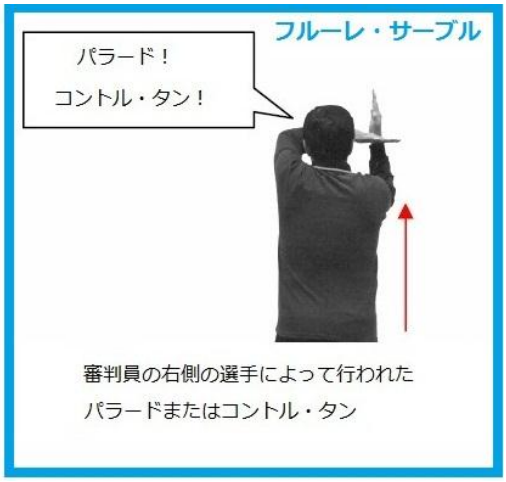


両選手へ1ポイントが与えられる

フルーレ
のみ



審判員の左側にいる選手の
無効面になされたトゥシュ



審判員の右側の選手によって行われた
パラードまたはコントル・タン



審判員の右側の選手の準備動作中に
左側の選手がアタックをおこなった場合



同時になされたアタックまたはルミーズ



ポイントなし
（警告なし、の場合は同じジェスチャーで「リアン！」）



イエローカード：警告
レッドカード：相手に１ポイント
ブラックカード：退場

審判員が出すカードの色は右側の選手による違反を示し、
それに対応する罰則の内容を提示する



審判員の右側にいる選手による攻撃が
短すぎてトゥシュがない場合



勝者：マッチまたはランコントルの終了に際し、
審判員は勝者の名前とスコアを言う。
選手はピストの中央に留まる。

注記：
(1) 審判員はフラーズ・ダルムを分析し、上記のジェスチャーと用語で判定を告げる。
(2) フラーズ・ダルムに従い、審判員はジェスチャーを伴わずに「リポスト」「コントル・リポスト」の用語を使用する。「アタック」のジェスチャーは「ルミーズ」「ルプリーズ」「ルドゥルブマン」にも使用する。
(3) 選手は審判員に対し礼儀正しい態度で、フラーズ・ダルムのより完全な分析を求めることができる。
(4) 各ジェスチャーは一定時間（1 秒～2 秒）持続され、かつ正確に行われなければならない。ここで示されているジェスチャーは審判員の右側にいる選手を対象としている。

都道府県別参加人数一覧表

地区	番号	都道府県	成年男子			成年女子			少年男子		少年女子		合計			総計
			監督		選手	監督		選手	監督	選手	監督	選手	監督		選手	
			専任	兼任		専任	兼任		専任		専任		専任	兼任		
北	1	北海道		(1)	3		(1)	3	1	3	1	3	2	(2)	12	14
東北	2	青森県		(1)	3		(1)	3	1	3	1	3	2	(2)	12	14
	3	岩手県		(1)	3		(1)	3	1	3			1	(2)	9	10
	4	宮城県		(1)	3		(1)	3			1	3	1	(2)	9	10
	5	秋田県		(1)	3				1	3	1	3	2	(1)	9	11
	6	山形県		(1)	3									(1)	3	3
	7	福島県		(1)	3				1	3			1	(1)	6	7
関東	8	茨城県		(1)	3									(1)	3	3
	9	栃木県		(1)	3						1	3	1	(1)	6	7
	10	群馬県		(1)	3						1	3	1	(1)	6	7
	11	埼玉県		(1)	3		(1)	3	1	3	1	3	2	(2)	12	14
	12	千葉県		(1)	3		(1)	3						(2)	6	6
	13	東京都		(1)	3		(1)	3	1	3	1	3	2	(2)	12	14
	14	神奈川県		(1)	3				1	3			1	(1)	6	7
	15	山梨県		(1)	3									(1)	3	3
北信越	16	新潟県		(1)	3									(1)	3	3
	17	長野県		(1)	3		(1)	3	1	3			1	(2)	9	10
	18	富山県		(1)	3									(1)	3	3
	19	石川県		(1)	3									(1)	3	3
	20	福井県		(1)	3		(1)	3			1	3	1	(2)	9	10
東海	21	静岡県		(1)	3									(1)	3	3
	22	愛知県		(1)	3				1	3			1	(1)	6	7
	23	三重県		(1)	3									(1)	3	3
	24	岐阜県		(1)	3		(1)	3	1	3	1	3	2	(2)	12	14
近畿	25	滋賀県		(1)	3									(1)	3	3
	26	京都府		(1)	3				1	3	1	3	2	(1)	9	11
	27	大阪府		(1)	3		(1)	3			1	3	1	(2)	9	10
	28	兵庫県		(1)	3									(1)	3	3
	29	奈良県		(1)	3									(1)	3	3
	30	和歌山県		(1)	3		(1)	3	1	3	1	3	2	(2)	12	14
中国	31	鳥取県		(1)	3		(1)	3						(2)	6	6
	32	島根県		(1)	3				1	3	1	3	2	(1)	9	11
	33	岡山県		(1)	3									(1)	3	3
	34	広島県		(1)	3									(1)	3	3
	35	山口県		(1)	3		(1)	3	1	3			1	(2)	9	10
四国	36	香川県		(1)	3				1	3	1	3	2	(1)	9	11
	37	徳島県		(1)	3						1	3	1	(1)	6	7
	38	愛媛県		(1)	3		(1)	3						(2)	6	6
	39	高知県		(1)	3									(1)	3	3
九州	40	福岡県		(1)	3									(1)	3	3
	41	佐賀県		(1)	3		(1)	3	1	3			1	(2)	9	10
	42	長崎県		(1)	3									(1)	3	3
	43	熊本県		(1)	3									(1)	3	3
	44	大分県		(1)	3		(1)	3			1	3	1	(2)	9	10
	45	宮崎県		(1)	3									(1)	3	3
	46	鹿児島県		(1)	3		(1)	3	1	3	1	3	2	(2)	12	14
	47	沖縄県		(1)	3									(1)	3	3
合計				(47)	141		(18)	54	18	54	18	54	36	(65)	303	339

※ 選手兼任監督の人数は、監督の［兼任］欄に記入し、選手数としてカウントする。

参加監督・選手一覧表

成年男子							
番号	都道府県	ゼッケン	監督／兼任	ゼッケン	選手	ゼッケン	選手
1	北海道	1011	阿部陽馬	1012	水牧拓夢	1013	阿部磨郁
2	青森県	1021	坪颯馬	1022	菅谷優斗	1023	林祥蓮
3	岩手県	1031	小岩聖那	1032	阿部大雅	1033	須藤諒雅
4	宮城県	1041	齋藤有	1042	佐々木涼真	1043	清原崇史
5	秋田県	1051	大塚昂輝	1052	津谷龍星	1053	夏井優
6	山形県	1061	青柳雄大	1062	岡村怜音	1063	齋藤圭吾
7	福島県	1071	髙橋恋	1072	佐々木優人	1073	渡部侑磨
8	茨城県	1081	永野広輔	1082	安雅人	1083	庄司光太朗
9	栃木県	1091	武井琉晟	1092	萩原宏樹	1093	京極光志
10	群馬県	1101	小林勇気	1102	角田秀輝	1103	松本朔
11	埼玉県	1111	橋本祥英	1112	唐澤颯斗	1113	髙橋未楽
12	千葉県	1121	小田隆介	1122	薗田嶺太	1123	中澤正成
13	東京都	1131	井神俊兵	1132	田中拓進	1133	成田航也
14	神奈川県	1141	中村豪	1142	戸島悠翔	1143	小城颯人
15	山梨県	1151	志村好宣	1152	田中寿	1153	石川凌雅
16	新潟県	1161	笠原崇弘	1162	平野良樹	1163	阿達空
17	長野県	1171	杉岡瑞基	1172	有賀尚迪	1173	戸枝大樹
18	富山県	1181	田辺空我	1182	藤野正真	1183	西村健也
19	石川県	1191	竹内凱	1192	河崎駿弥	1193	宮本光瞳
20	福井県	1201	張眞龍太	1202	熊谷志孔	1203	田中陸
21	静岡県	1211	杉山良徳	1212	藤枝優人	1213	渡邊英向
22	愛知県	1221	加藤玄	1222	長谷川力玖	1223	林川琉偉
23	三重県	1231	松本優	1232	伊藤匠吾	1233	澤村悠斗
24	岐阜県	1241	鈴村健太	1242	福田亮介	1243	高橋橙生
25	滋賀県	1251	保知純之介	1252	宿院徳真	1253	深尾俐瑠紀
26	京都府	1261	田中風舞	1262	菊本雪	1263	村上日陽
27	大阪府	1271	藤田隼輔	1272	安田和真	1273	竹本大朗
28	兵庫県	1281	山本翔磨	1282	逢坂慈英	1283	大坂真脩
29	奈良県	1291	川畑友博	1292	松本拓真	1293	仲啓志
30	和歌山県	1301	松村侑馬	1302	井川晃暉	1303	山口改
31	鳥取県	1311	田中元	1312	小西玄泰	1313	村田煌冴
32	島根県	1321	石原雄平	1322	遠藤駿斗	1323	田中仁
33	岡山県	1331	難波憲士郎	1332	増田陽人	1333	濱中雅也
34	広島県	1341	尾上行伸	1342	渋谷凌央	1343	谷本静哉
35	山口県	1351	菊池正太郎	1352	中本尚志	1353	下村祐翔
36	香川県	1361	松浦碧也	1362	吉田壮志	1363	福島滉成
37	徳島県	1371	平岡弘之介	1372	桝藤拓馬	1373	板東由眞
38	愛媛県	1381	三好修平	1382	新田涼平	1383	吉弘航平
39	高知県	1391	宮田拓海	1392	尾﨑史龍	1393	尾﨑勇飛
40	福岡県	1401	木村芳徳	1402	村岡聡丞	1403	大村貴之
41	佐賀県	1411	古田育男	1412	山田優	1413	齊藤憲司
42	長崎県	1421	濵根尚和	1422	松本侑武	1423	山田浩司
43	熊本県	1431	舩本誠志郎	1432	尾川世我	1433	関本祐大
44	大分県	1441	大石利樹	1442	上野優斗	1443	中村太郎
45	宮崎県	1451	小熊涼太	1452	黒木優	1453	山本航士郎
46	鹿児島県	1461	鎌田晃成	1462	上出桐	1463	篠原功
47	沖縄県	1471	仙葉恭輔	1472	田村優治	1473	嘉手川重吾

10月7日時点

成　年　女　子

番号	都道府県	ゼッケン	監督／兼任	ゼッケン	選　手	ゼッケン	選　手
1	北海道	2011	神山天音	2012	井下玲菜	2013	井下愛莉
2	青森県	2021	佐藤希枝	2022	横岡奈子	2023	葛原春乃
3	岩手県	2031	千葉朱夏	2032	千葉穂波	2033	小野寺里穂
4	宮城県	2041	池田景	2042	狩野愛巳	2043	狩野央梨沙
5	埼玉県	2111	伊達京	2112	板橋香菜子	2113	岩橘英莉花
6	千葉県	2121	鈴木凛	2122	山崎妃奈乃	2123	亀川満里菜
7	東京都	2131	久保田未来乃	2132	久保田未織乃	2133	早川葵彩
8	長野県	2171	小池花佳	2172	春田友菜	2173	縣ほのか
9	福井県	2201	佐藤希望	2202	高原真央	2203	山根妃七
10	岐阜県	2241	中出陽愛	2242	清水美伶	2243	村瀬あかり
11	大阪府	2271	金氣愛華	2272	高山輪子	2273	松本璃音
12	和歌山県	2301	福塚世帆	2302	稲田椋	2303	後藤伊世
13	鳥取県	2311	村田千穂	2312	村田胡桃	2313	前田啓子
14	山口県	2351	鈴木はな	2352	田熊光菜	2353	岡村真琴
15	愛媛県	2381	高橋ひかり	2382	周藤美月	2383	大岡詩苑
16	佐賀県	2411	雨田由香	2412	原田渉未	2413	西川日湖
17	大分県	2441	足立悠	2442	岡田風花	2443	西山花桜
18	鹿児島県	2461	馬場菜緒	2462	駒路ひかる	2463	萱島朝香

少　年　男　子

番号	都道府県	監　督	ゼッケン	選　手	ゼッケン	選　手	ゼッケン	選　手
1	北海道	稲田希美	3011	山津朔太郎	3012	髙根将伍	3013	野口継生
2	青森県	澤田稔章	3021	野中健伍	3022	三浦楓陽	3023	長谷川暉
3	岩手県	田村明	3031	長根輝人	3032	小野寺陽斗	3033	菅原大夢
4	秋田県	松井公章	3051	板橋心大	3052	相馬天星	3053	藤田真惺
5	福島県	今野勝	3071	今野翼	3072	田代凌雅	3073	大澤与朗
6	埼玉県	芹澤洋人	3111	丸山慶士	3112	伊達和臣	3113	澤海光希
7	東京都	福田佑輔	3131	福島暖大	3132	高橋麗人	3133	島村大翔
8	神奈川県	濱野理	3141	前田将志	3142	幸田朋優	3143	土田悠人
9	長野県	松渕直希	3171	田中伸一郎	3172	原悠葵	3173	唐澤翔
10	愛知県	冨田弘樹	3221	田中遼大	3222	室星雅	3223	池上叶人
11	岐阜県	西脇一徳	3241	吉田京雅	3242	田内颯斗	3243	米山玲旺
12	京都府	西村拓也	3261	飯村要	3262	松崎光惺	3263	古市冬真
13	和歌山県	戸口満友	3301	垣本篤志	3302	竹山悠仁	3303	吉森蓮
14	島根県	川井誠司	3321	椿流空	3322	中尾太一	3323	西村勇人
15	山口県	津江碧	3351	ボラノス檜人	3352	藤山啓豊	3353	七五三航平
16	香川県	國金直剛	3361	奥山塁	3362	川悠汰	3363	馬場隆之進
17	佐賀県	三野昌俊	3411	淵要介	3412	山口創史	3413	一ノ瀬倭
18	鹿児島県	東裕二	3461	白男川瞬	3462	安武龍杜	3463	村田碧翔

少　年　女　子

番号	都道府県	監　督	ゼッケン	選　手	ゼッケン	選　手	ゼッケン	選　手
1	北海道	雨尾保典	4011	雨尾七心	4012	光川眞永	4013	久保つばき
2	青森県	坪俊彦	4021	成田愛奈	4022	畑中咲陽	4023	新山幸華
3	宮城県	山下あゆみ	4041	多田桃歌	4042	臼井莉紗	4043	井出とうこ
4	秋田県	酒井さゆり	4051	成田和叶	4052	土佐優奈	4053	松渕彩花
5	栃木県	春山正幸	4091	粕谷優月	4092	菊池舞衣	4093	栃木結奈
6	群馬県	吉澤千恵	4101	齋藤伽蓮	4102	志賀結月	4103	小林ひな
7	埼玉県	森翔一	4111	内藤后紀	4112	正木乃愛	4113	田代ゆう
8	東京都	安海友貴	4131	白石瑠花	4132	中村新依	4133	杉野絢華
9	福井県	田端洋平	4201	永田心	4202	横山心結	4203	古市颯希
10	岐阜県	山田結子	4241	髙橋ののか	4242	三輪楓華	4243	後藤結衣
11	京都府	池端花奈恵	4261	熊本詩乃	4262	今村文音	4263	今井くるみ
12	大阪府	大西隆	4271	白崎悠理	4272	竹下結	4273	仲尾乃亜
13	和歌山県	九野桃佳	4301	鵜本翠	4302	新田美亜紀	4303	金丸依央
14	島根県	渡辺大介	4321	吉岡日菜子	4322	高橋めいさ	4323	仙田怜桜菜
15	香川県	蓮井陽菜	4361	西村ひまり	4362	山畑花乃子	4363	宮﨑藍
16	徳島県	久木直人	4371	松畠桜花	4372	安藝梢	4373	高畠望
17	大分県	佐藤麻依子	4441	石川愛瑚	4442	三浦さくら	4443	河野渚
18	鹿児島県	下野滋史	4461	永井凛凪	4462	花岡瑠奈	4463	小笹愛呼

10月7日時点

総合成績決定方法

男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）は、競技得点と参加得点の合計とし、その得点の多い都道府県順に順位を決定する。ただし、同点の場合は、その順位を共有し、次の順位を欠位とする。

(1)　競技得点

天皇杯対象種別	皇后杯対象種別	競　技　得　点
成　年　男　子 成　年　女　子 少　年　男　子 少　年　女　子	成　年　女　子 少　年　女　子	各種目とも１位 24点、２位 21点、３位 18点、４位 15点、５位 12点、６位 ９点、７位 ６点、８位 ３点の競技得点を与える。

(2)　参加得点

大会（ブロック大会を含む。）に参加した都道府県に10点を与える。ただし、ブロック大会で本大会の出場権を獲得しながら、本大会に参加しなかった場合は与えない。

表　　彰

(1)　男女総合成績及び女子総合成績第１位から第８位までの都道府県に、表彰状を授与する。

(2)　男女総合成績第１位の都道府県に、大会会長トロフィーを授与する。

(3)　少年男子、少年女子の各種別及び成年男子・成年女子の各種目の第１位から第８位までに、賞状を授与する。

栄光の記録　国民体育大会・国民スポーツ大会年次別成績表一覧

種別	大会名 / 種目／開催地	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回
		東京	愛知	広島	福島	愛媛	北海道	神奈川	兵庫	静岡	富山	東京	熊本	秋田
総合											東京	神奈川	京都	神奈川
一般男子団体	フルーレ	東京	京都	東京	福島	東京	埼玉	神奈川	福島	福島				
	エペ	東京	東京	東京	神奈川	静岡	京都	神奈川	福島	東京			東京	神奈川
	サーブル	千葉	東京	千葉	東京	千葉	福島	群馬	山梨	静岡				
一般男子個人	フルーレ	(宮城) 中島 英一	(東京) 中村 栄太郎	(佐賀) 内山 茂	(福島) 遠藤 国一郎	(千葉) 織田 毅	(東京) 廣瀬 康夫				(東京) 船水 光行	(宮城) 千葉 卓朗	(京都) 田淵 和彦	(京都) 田淵 和彦
	エペ	(東京) 池内 一郎	(東京) 池内 一郎	(東京) 池内 一郎	(京都) 鈴木 悠蔵	(静岡) 中原 富賀美	(東京) 船水 光行				(東京) 船水 光行	(東京) 小沢 嗣央	(京都) 田淵 和彦	(山梨) 奥秋 和彦
	サーブル	(東京) 須郷 智	(東京) 高野 通俊	(東京) 高野 通俊	(東京) 白井 宗光	(東京) 白井 宗光	(静岡) 中原 富賀美				(静岡) 中原 富賀美	(大阪) 井上 憲治	(静岡) 中原 富賀美	(愛知) 山下 将
女子	フルーレ	(東京) 鈴木 君子	(京都) 太田 香苗	(東京) 飯田 美枝子	(東京) 鈴木 君子	(東京) 鈴木 君子	(東京) 新田 達子	東京	(東京) 新田 達子	(宮城) 吉野 美賀子	(東京) 竹内 由江	(宮城) 大和田 智子	(宮城) 大和田 智子	(愛知) 神谷 宣子
高校団体	フルーレ			(宮城) 仙台 高校	(京都) 洛陽 高校	(東京) 明治 高校	宮城 チーム	愛知						
高校個人				(宮城) 石橋 和夫	(千葉) 柏木 啓介	(神奈川) 山本 基寛	(神奈川) 藤原 悦馬		(愛知) 榊原 勇一	(愛知) 山口 剛志	(愛知) 長縄 文男	(京都) 林 涼一 (神奈川) 内畑 礼子	(神奈川) 伊藤 輝男 (富山) 保井 多美子	(東京) 土井 章 (宮城) 神馬 加寿子

種別	大会名 / 種目／開催地	第17回	第18回	第19回	第20回	第21回	第22回	第23回	第24回	第25回	第26回	第27回	第28回	第29回
		岡山	山口	新潟	岐阜	大分	埼玉	福井	長崎	岩手	和歌山	鹿児島	千葉	茨城
総合		愛知	神奈川	神奈川・山口	岐阜	東京	東京	京都	東京	東京	和歌山	愛知	東京	茨城 東京
男子団体	フルーレ	愛知	山口	山口	岐阜	東京	東京	大阪	東京	東京	千葉	愛知	秋田	東京
	エペ	北海道	神奈川	山口	埼玉	埼玉	埼玉	神奈川	東京	大阪	埼玉	東京	埼玉	福井
	サーブル	神奈川	神奈川	山口	岐阜	京都	静岡	京都	京都	京都	愛知	千葉	東京	東京
女子	フルーレ	東京	宮城	宮城	北海道	東京	東京	愛知	東京	岐阜	秋田	秋田	東京	秋田
高校	フルーレ	愛知	愛知	愛知	福井	宮城	東京	福井	秋田	秋田	和歌山	大阪	東京	秋田

種別	大会名 / 種目／開催地	第30回	第31回	第32回	第33回	第34回	第35回	第36回	第37回	第38回	第39回	第40回	第41回	第42回
		三重	佐賀	青森	長野	宮崎	栃木	滋賀	島根	群馬	奈良	鳥取	山梨	沖縄
総合		秋田	秋田	東京	秋田	秋田	秋田	滋賀	群馬	群馬	奈良	和歌山	山梨	和歌山
成年男子	フルーレ	福井	群馬	福井	千葉	埼玉	青森	滋賀	群馬	秋田	秋田	山梨	山梨	和歌山
	エペ	三重	北海道	福井	埼玉	千葉	埼玉	滋賀	茨城	千葉	鳥取	鳥取	山梨	和歌山
	サーブル	東京	茨城	東京	東京	埼玉	東京	東京	長野	群馬	奈良	山梨	山梨	東京
成年女子	フルーレ	秋田	東京	東京	和歌山	東京	千葉	和歌山	和歌山	和歌山	奈良	和歌山	山梨	和歌山
少年男子	フルーレ	茨城	宮城	秋田	長野	秋田	秋田	鹿児島	宮城	鹿児島	千葉	埼玉	秋田	群馬
少年女子	フルーレ	秋田	秋田	長崎	秋田	秋田	栃木	秋田	東京	東京	宮城	岐阜	秋田	東京

種別	大会名 / 種目／開催地	第43回	第44回	第45回	第46回	第47回	第48回	第49回	第50回	第51回	第52回	第53回	第54回	第55回
		京都	北海道	福岡	石川	山形	香川	愛知	福島	広島	大阪	神奈川	熊本	富山
総合		和歌山	和歌山	和歌山	石川	岐阜	和歌山	和歌山	福島	大分	大分	鹿児島	岐阜	和歌山
成年男子	フルーレ	山梨	山梨	和歌山	秋田	和歌山	香川	秋田	和歌山	大分	東京	山形	和歌山	和歌山
	エペ	京都	和歌山	東京	島根	徳島	山形	大分	宮城	京都	京都	島根	島根	岡山
	サーブル	東京	東京	石川	東京	東京	香川	徳島	大分	東京	大阪	東京	大分	東京
成年女子	フルーレ	東京	秋田	石川	石川	和歌山	香川	山梨	愛知	和歌山	大分	大阪	山梨	大阪
少年男子	フルーレ	秋田	岐阜	群馬	和歌山	岐阜	山形	和歌山	富山	埼玉	富山	鹿児島	岐阜	福島
少年女子	フルーレ	埼玉	和歌山	和歌山	岐阜	香川	栃木	岐阜	香川	香川	大分	鹿児島	山形	岐阜

種別	大会名 / 種目／開催地	第56回	第57回	第58回	第59回	第60回	第61回	第62回	第63回	第64回	第65回	第66回	第67回	第68回
		宮城	高知	静岡	埼玉	岡山	兵庫	秋田	大分	新潟	千葉	山口	岐阜	東京
総合		大分	秋田	岐阜	大分	岐阜	秋田	大分・和歌山	岐阜	岐阜	岐阜	岐阜・大分	岐阜	東京
成年男子	フルーレ	京都	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	神奈川	神奈川	京都	和歌山	熊本	秋田	埼玉	東京
	エペ	熊本	熊本	大分	岡山	岡山	和歌山	大分		新潟		香川		新潟
	サーブル	東京	東京	東京	岐阜	福島	東京	大分	岐阜		群馬		東京	
成年女子	フルーレ	大阪	大阪	宮城	埼玉	山形	宮城	秋田	和歌山	群馬	京都	大阪	和歌山	和歌山
	エペ								静岡		香川		群馬	
	サーブル									大阪		岐阜		山形
少年男子	フルーレ	青森	秋田	神奈川	神奈川	東京	京都	秋田	神奈川	京都	岐阜	大分	岐阜	東京
少年女子	フルーレ	群馬	宮城	福井	和歌山	和歌山	和歌山	富山	岐阜	愛媛	大分	秋田	岐阜	東京

栄光の記録　国民体育大会・国民スポーツ大会年次別成績表一覧

種別	大会名／種目／開催地	第69回 長崎	第70回 和歌山	第71回 岩手	第72回 愛媛	第73回 福井	第74回 茨城	第75回 鹿児島	第76回 三重	第77回 栃木	特別 鹿児島	第78回 佐賀	第79回 滋賀	第80回 青森
総合		大分	東京	岐阜	東京	岐阜	岐阜	延期	中止	京都	秋田	東京・京都	京都	
成年男子	フルーレ	大分	東京	岩手	岩手	秋田	秋田			大分	大分	大分	岐阜	
	エペ		群馬		大分		三重					神奈川		
	サーブル	東京		東京		福井				三重	東京		滋賀	
成年女子	フルーレ	大阪	熊本	熊本	岐阜	東京	和歌山			和歌山	京都	岐阜	京都	
	エペ	大分		宮城		福井				京都	福井		滋賀	
	サーブル		東京		大阪		鹿児島					佐賀		
少年男子	フルーレ	東京	岐阜	岐阜	大分	神奈川	岐阜			京都	神奈川	埼玉	京都	
少年女子	フルーレ	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	京都	京都			東京	東京	京都	岐阜	

種別	大会名／種目／開催地	第81回 宮崎	第82回	第83回	第84回	第85回	第86回	第87回	第88回	第89回	第90回	第91回	第92回	第93回
総合														
成年男子	フルーレ													
	エペ													
	サーブル													
成年女子	フルーレ													
	エペ													
	サーブル													
少年男子	フルーレ													
少年女子	フルーレ													

種別	大会名／種目／開催地	第94回	第95回	第96回	第97回	第98回	第99回	第100回	第101回	第102回	第103回	第104回	第105回	第106回
総合														
成年男子	フルーレ													
	エペ													
	サーブル													
成年女子	フルーレ													
	エペ													
	サーブル													
少年男子	フルーレ													
少年女子	フルーレ													

種別	大会名／種目／開催地	第107回	第108回	第109回	第110回	第111回	第112回	第113回	第114回	第115回	第116回	第117回	第118回	第119回
総合														
成年男子	フルーレ													
	エペ													
	サーブル													
成年女子	フルーレ													
	エペ													
	サーブル													
少年男子	フルーレ													
少年女子	フルーレ													

種別	大会名／種目／開催地	第120回	第121回	第122回	第123回	第124回	第125回	第126回	第127回	第128回	第129回	第130回	第131回	第132回
総合														
成年男子	フルーレ													
	エペ													
	サーブル													
成年女子	フルーレ													
	エペ													
	サーブル													
少年男子	フルーレ													
少年女子	フルーレ													

関係機関連絡先一覧

◆青の煌めきあおもり国スポ・障スポむつ市実行委員会事務局

名称	所在地	電話番号
むつ市役所市民生活部 国スポ・障スポ推進課	むつ市中央一丁目８番１号	0175-22-1111

◆会場

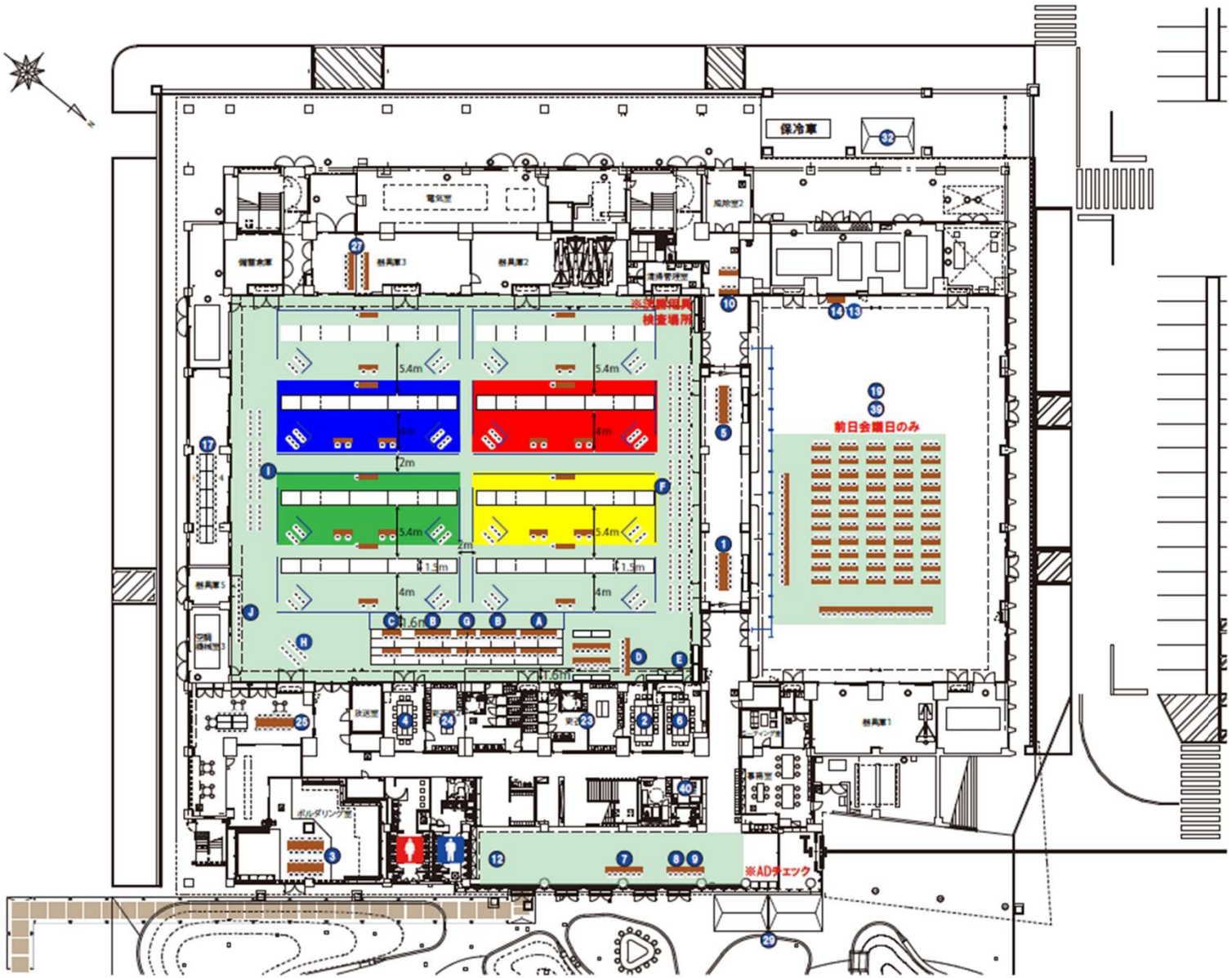
名称	所在地	電話番号
むつマエダアリーナ	むつ市真砂町９番１号	0175-28-1125

◆警察・消防署等

名称	所在地	電話番号
むつ警察署	むつ市中央１丁目 19 番１号	0175-22-1321
下北地域広域行政組合 消防本部	むつ市小川町二丁目 14 番１号	0175-22-3819
大湊消防署	むつ市大湊新町 35 番 25 号	0175-24-2091
むつ保健所	むつ市中央１丁目 3-33 青森県むつ健康福祉庁舎1階	0175-31-1388

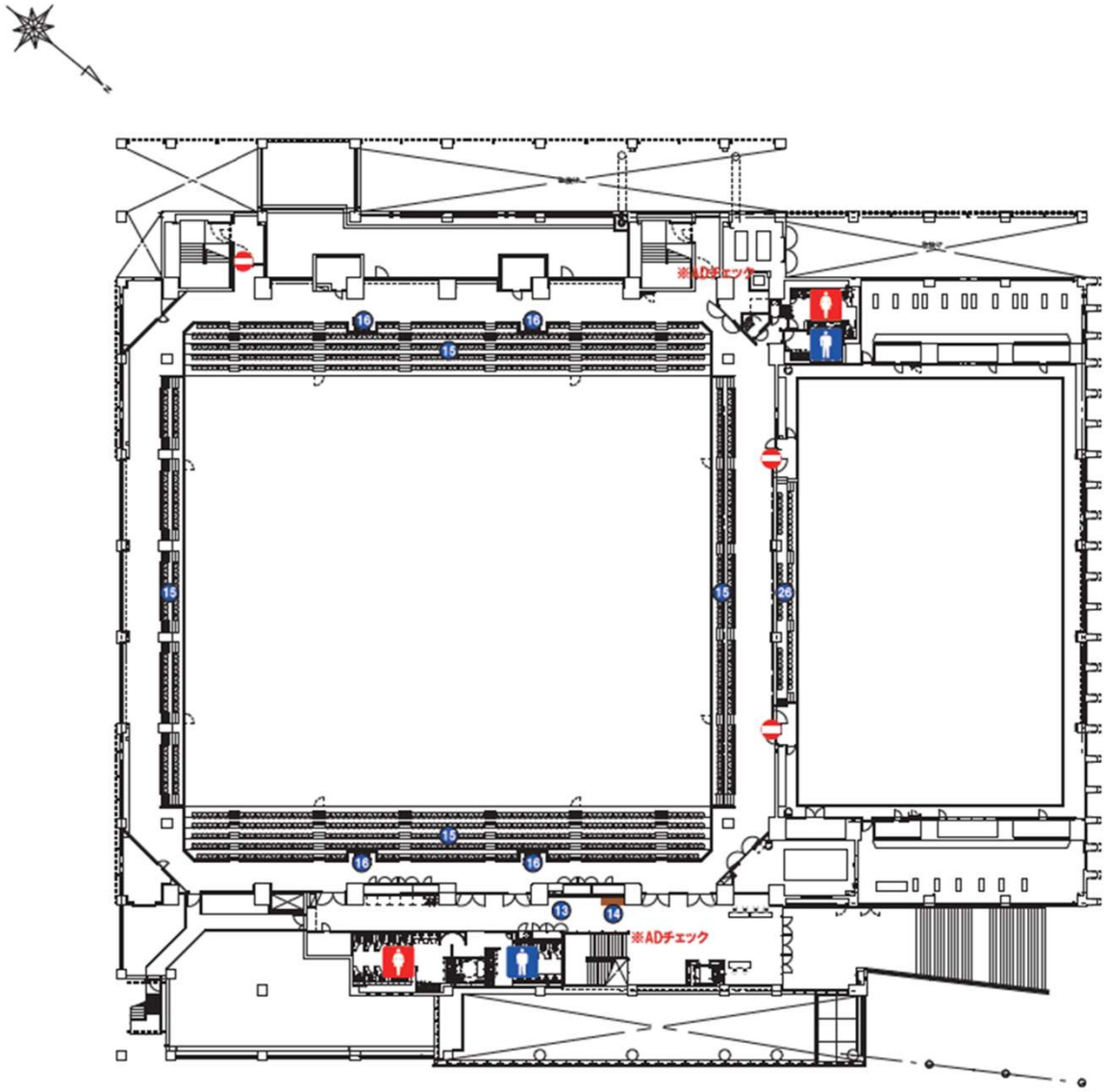
◆医療機関

名称	所在地	電話番号
むつ総合病院	むつ市小川町１丁目２番８号	0175-22-2111



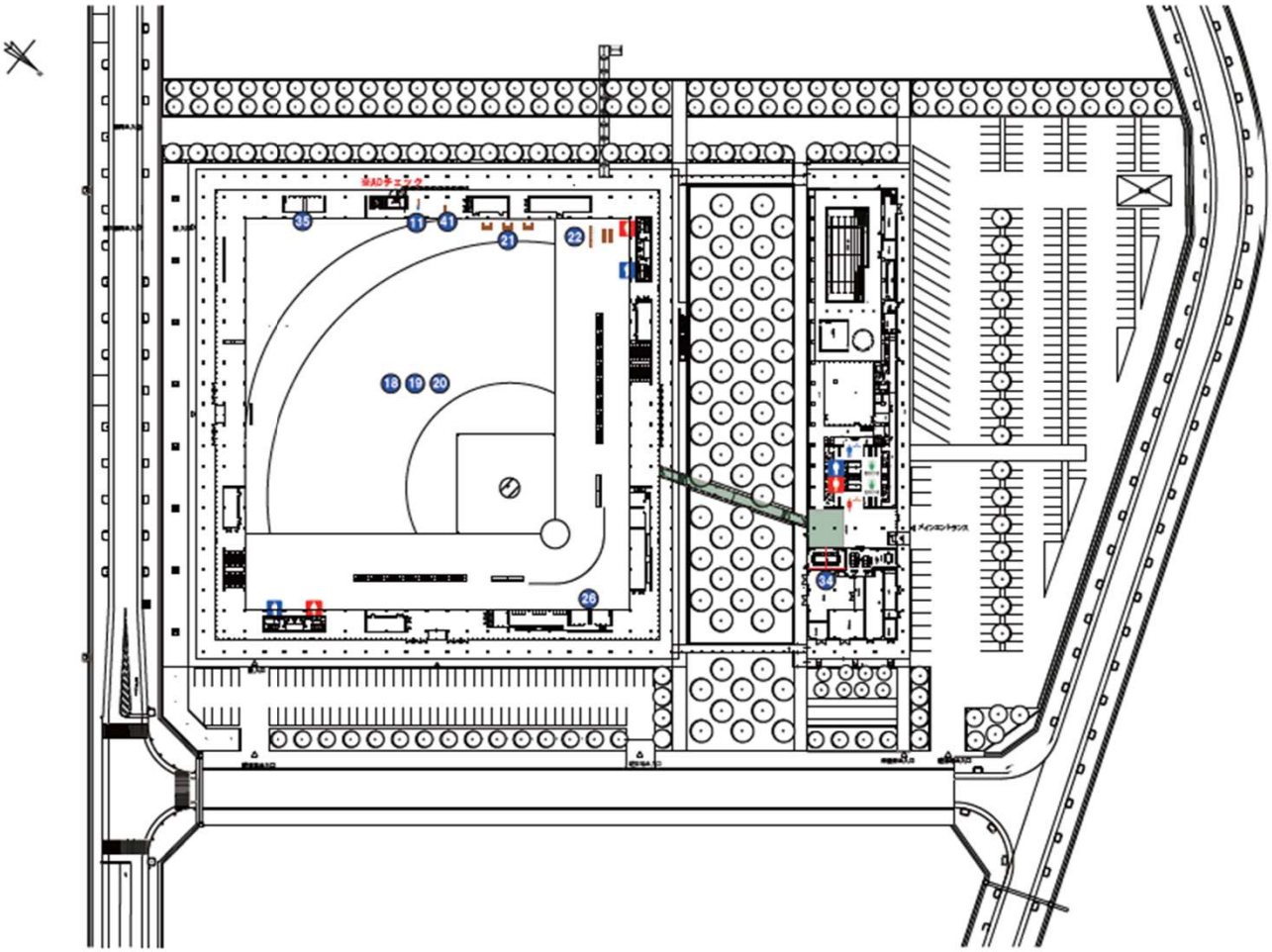
No	施設名称
A	競技本部・技術委員席
B	来賓・競技会役員席
C	放送・PA席
D	DT受付記録本部
E	記載所
F	選手待機席
G	救護席
H	審判員席
I	競技補助員席
J	報道員・視察員席

No	施設名称
1	筆耕本部
2	来賓控室
3	審判員控室
4	救護室
5	実施本部
6	競技役員控室(中央)
7	受付(行政関係者)
8	受付(選手・監督)
9	受付(競技関係者)
10	弁当引換所
11	無料ドリンクコーナー(選手・監督)
12	インタビューコーナー
13	トーナメント表
14	記録速報所
15	一般観覧席
16	車いす席
17	競技会補助員・競技補助員控所
18	選手・監督控室
19	アップ場
20	荷物置場
21	用具メンテナンス所
22	用具検査所
23	男子更衣室
24	女子更衣室
25	競技役員控室(県内)
26	競技会係員・ボランティア控所
27	報道員・視察員控所
28	売店
29	ふるまいコーナー
30	無料ドリンクコーナー(一般観客)
31	休憩所
32	ごみ集積所
33	喫煙所
34	ドーピング検査室
35	環境美化本部
36	バス待合所
37	輸送交通本部
38	駐車場係員控所
39	審判・監督会議
40	授乳室
41	宅配受付所



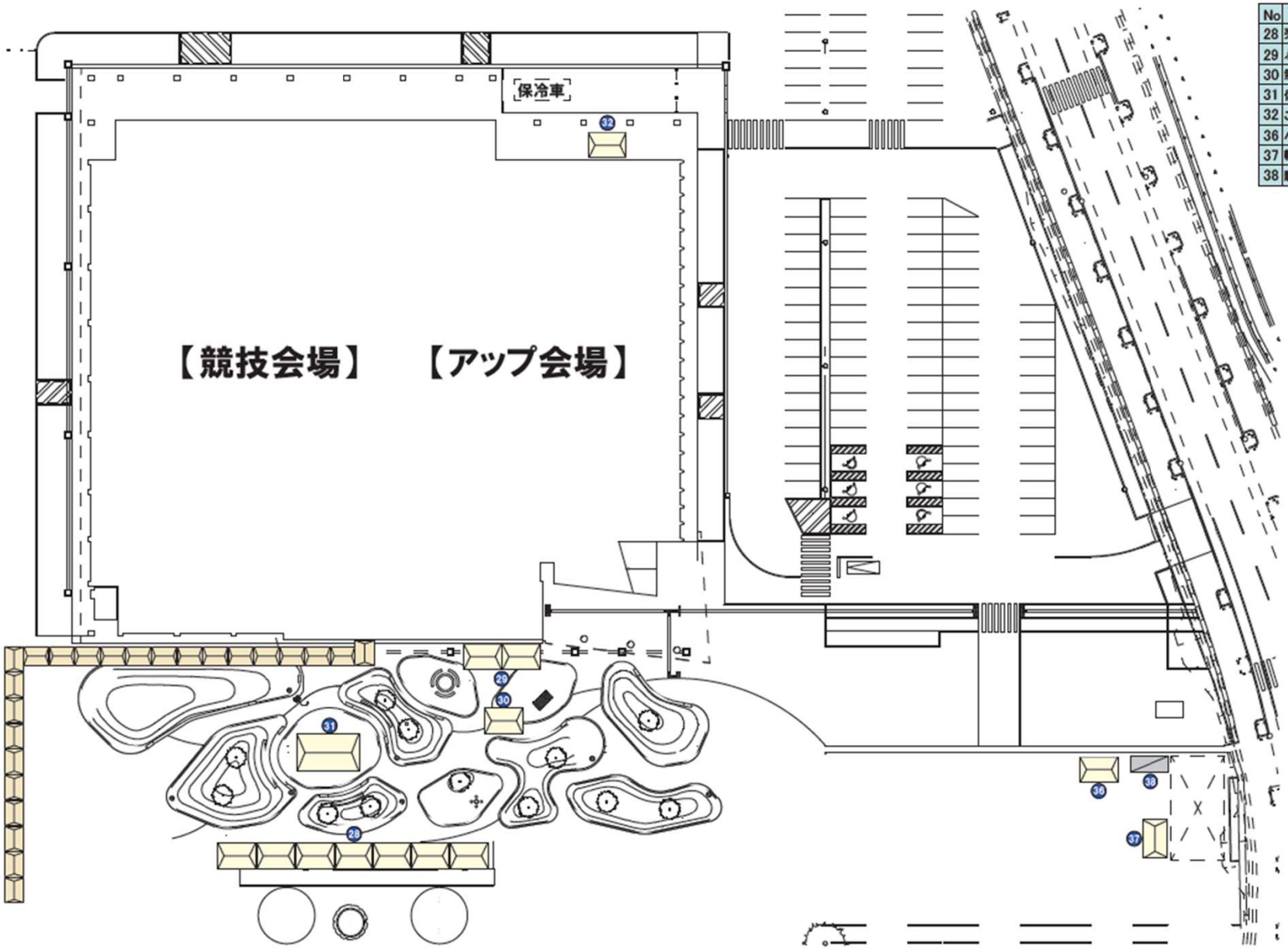
No	施設名称
A	競技本部・技術委員席
B	来賓・競技会役員席
C	放送・PA席
D	DT受付記録本部
E	記載所
F	選手待機席
G	救護席
H	審判員席
I	競技補助員席
J	報道員・視察員席

No	施設名称
1	筆耕本部
2	来賓控室
3	審判員控室
4	救護室
5	実施本部
6	競技役員控室(中央)
7	受付(行政関係者)
8	受付(選手・監督)
9	受付(競技関係者)
10	弁当引換所
11	無料ドリンクコーナー（選手・関係者）
12	インタビューコーナー
13	トーナメント表
14	記録速報所
15	一般観覧席
16	車いす席
17	競技会補助員・競技補助員控所
18	選手・監督控室
19	アップ場
20	荷物置場
21	用具メンテナンス所
22	用具検査所
23	男子更衣室
24	女子更衣室
25	競技役員控室(県内)
26	競技会役員・ボランティア控所
27	報道員・視察員控所
28	売店
29	ふるまいコーナー
30	無料ドリンクコーナー(一般観客)
31	休憩所
32	ごみ集積所
33	喫煙所
34	ドーピング検査室
35	環境美化本部
36	バス待合所
37	輸送交通本部
38	駐車場係員控所
39	審判・監督会議
40	授乳室
41	宅配受付所



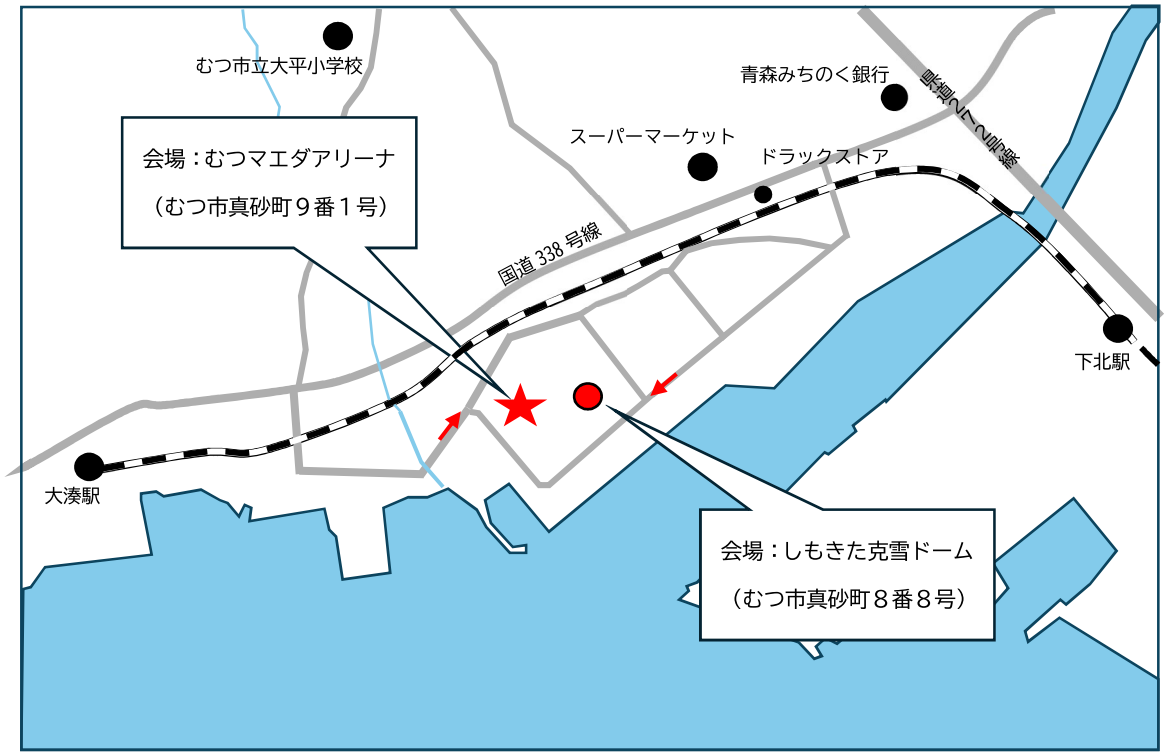
No	施設名称
A	競技本部・技術委員席
B	来賓・競技会役員席
C	放送・PA席
D	DT受付記録本部
E	記載所
F	選手待機席
G	救護席
H	審判員席
I	競技補助員席
J	報道員・視察員席

No	施設名称
1	筆耕本部
2	来賓控室
3	審判員控室
4	救護室
5	実施本部
6	競技役員控室(中央)
7	受付(行政関係者)
8	受付(選手・監督)
9	受付(競技関係者)
10	弁当引換所
11	無料ドリンクコーナー(選手・関係者)
12	インタビューコーナー
13	トーナメント表
14	記録速報所
15	一般観覧席
16	車いす席
17	競技会補助員・競技補助員控所
18	選手・監督控室
19	アップ場
20	荷物置場
21	用具メンテナンス所
22	用具検査所
23	男子更衣室
24	女子更衣室
25	競技役員控室(県内)
26	競技会役員・ボランティア控所
27	報道員・視察員控所
28	売店
29	ふるまいコーナー
30	無料ドリンクコーナー(一般観客)
31	休憩所
32	ごみ集積所
33	喫煙所
34	ドーピング検査室
35	環境美化本部
36	バス待合所
37	輸送交通本部
38	駐車場係員控所
39	審判・監督会議
40	授乳室
41	宅配受付所



No	施設名称	仕様・規格	数量
28	売店	テント 2kx3k	5張
29	ふるまいコーナー	テント 2kx3k	2張
30	無料ドリンクコーナー(一般観客)	テント 2kx3k	1張
31	休憩所	テント 3kx5k	1張
32	ごみ集積所	テント 2kx3k	1張
36	バス待合所	テント 2kx3k	1張
37	輸送交通本部	テント 2kx3k	1張
38	駐車場係員控所	テント 2kx3k	1張

競技会場案内図



◆会場へのアクセス

バス

muve＜下北駅＞から＜ウェルネスパーク前＞・・・約１０分

シャトルバス＜下北駅＞から＜競技会場＞・・・約１０分



超えて

挑戦者たちは越えようとする。
記録を。ライバルを。自分自身を。
過去の常識も。世界の価値観さえも。
挑戦者たちこそあたらしい未来への原動力だ。
これまでも、そしてこれからも、
わたしたちは挑戦する人たちを応援します。
スポーツの持つ様々な可能性で、
望む未来へたどり着くために。

JSPO
Japan Sport Association

スポーツと、望む未来へ。

わたしたちは、JAPAN GAMES を応援しています。

Otsuka 大塚製薬　Mizuno　三井住友海上 MS&AD INSURANCE GROUP

セレスポ　時事通信

NO! スポハラ

スポーツ・ハラスメント（暴力、暴言、ハラスメントなど）に、
みんなが『NO！』と言う社会を目指して

『スポハラ（スポーツ・ハラスメント）』とは？

「スポハラ（スポーツ・ハラスメント）」とは、スポーツの現場において、「暴力」、「暴言」、「ハラスメント」、「差別」など“安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為”のことです。

指導者と指導を受ける者との関係のみならず、スポーツの現場における関係者の誰によっても、また誰に対してであっても、スポハラは起こりえます。

JSPO Japan Sport Association
Japanese Olympic Committee
JPSA
UNIVAS

JSPO
Japan Sport Association

スポーツにおける暴力行為等相談窓口



どなたでもご利用可能！

お気軽にご相談ください

「スポハラ」をなくすためには

「いかなる理由でも、指導者・コーチによる不適切な行為はあってはならない」

とスポーツに携わるすべての人が思うことが重要です。

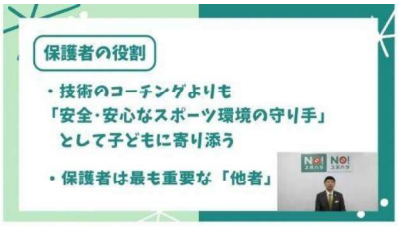
スポーツにおける暴力行為等根絶宣言・スポーツ・インテグリティ確保に関する協力覚書≫≫

『スポハラ』根絶に向けた取組み

JSPO
Japan Sport Association

① 教材・動画の公開



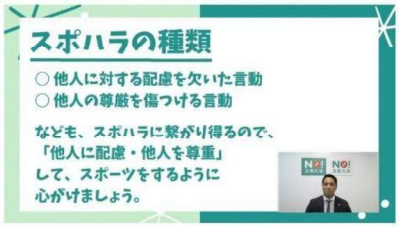


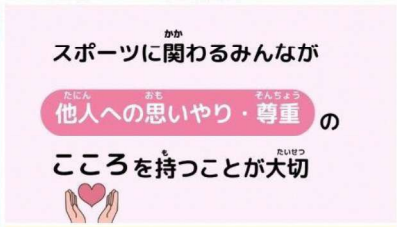




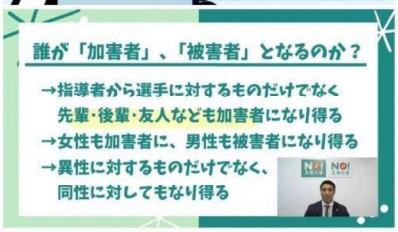




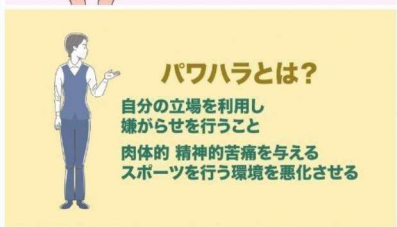


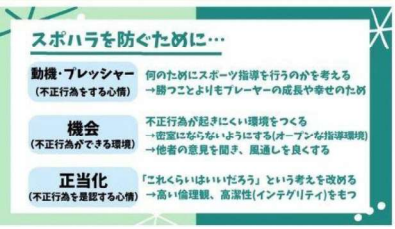


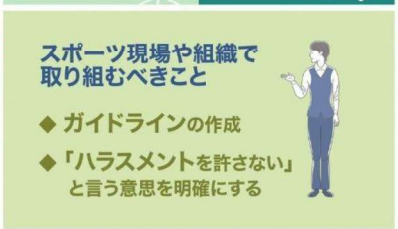


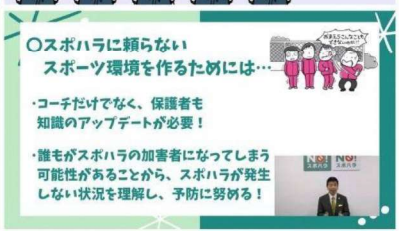














② 普及啓発活動の実施・イベントの開催























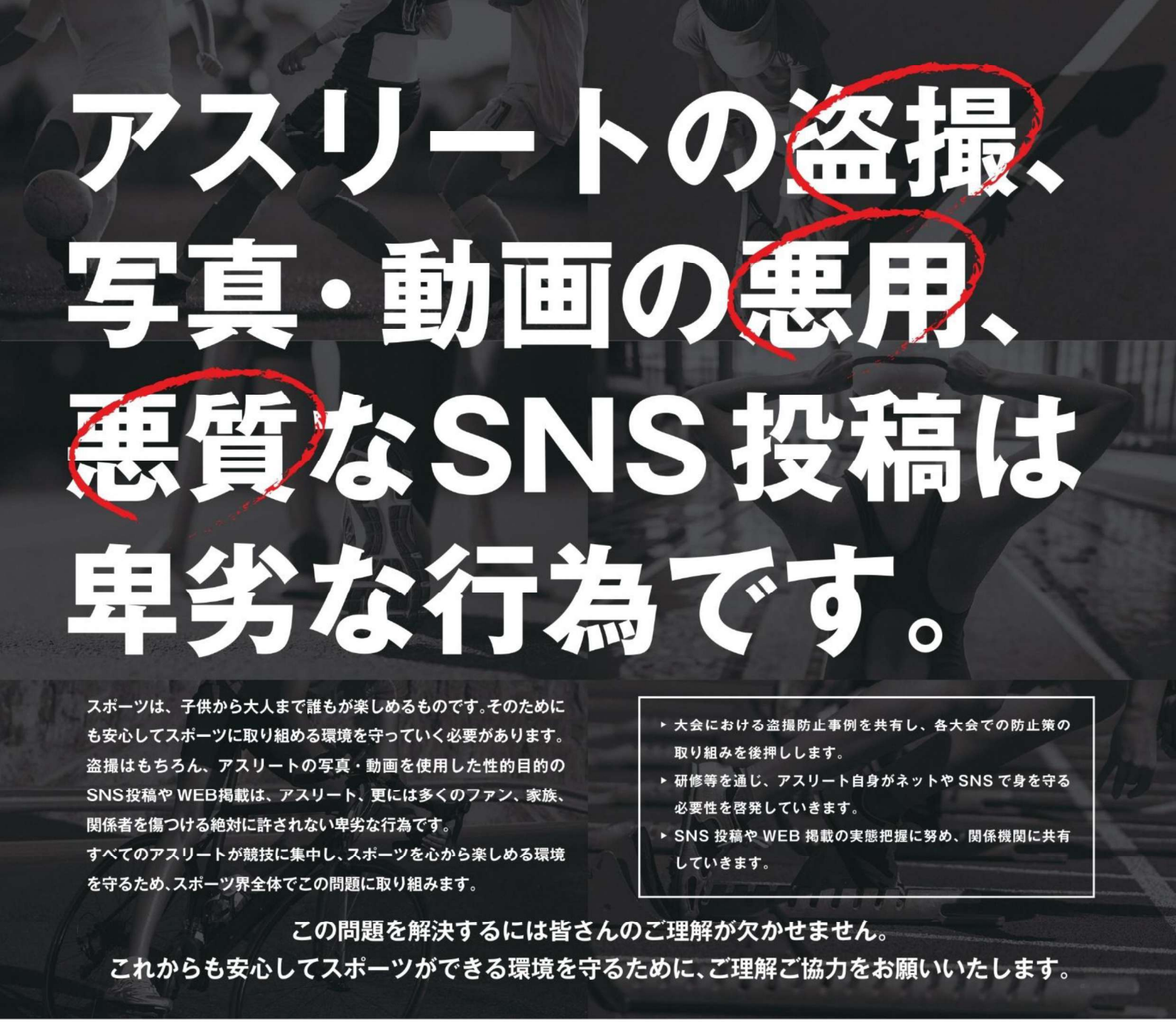












アスリートの盗撮、写真・動画の悪用、悪質なSNS投稿は卑劣な行為です。

スポーツは、子供から大人まで誰もが楽しめるものです。そのためにも安心してスポーツに取り組める環境を守っていく必要があります。
盗撮はもちろん、アスリートの写真・動画を使用した性的目的のSNS投稿やWEB掲載は、アスリート、更には多くのファン、家族、関係者を傷つける絶対に許されない卑劣な行為です。
すべてのアスリートが競技に集中し、スポーツを心から楽しめる環境を守るため、スポーツ界全体でこの問題に取り組みます。

- 大会における盗撮防止事例を共有し、各大会での防止策の取り組みを後押しします。
- 研修等を通じ、アスリート自身がネットやSNSで身を守る必要性を啓発していきます。
- SNS投稿やWEB掲載の実態把握に努め、関係機関に共有していきます。

この問題を解決するには皆さんのご理解が欠かせません。
これからも安心してスポーツができる環境を守るために、ご理解ご協力をお願いいたします。

安全な環境を、すべてのスポーツ愛好者のために。

SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.

大会会場で盗撮等が疑われる行為を見かけましたら大会主催者にお知らせください。

アスリートを傷つける性的目的のSNS投稿やWEB掲載を見かけましたら下記サイトよりご連絡ください。
今後の対応に活用するとともに、悪質な事例については当局への通報も検討します。

https://www.joc.or.jp/about/savesport/

- **盗撮は迷惑防止条例で犯罪として処罰される可能性があります。**
- **SNS等で本人の名誉を傷つける書き込みは犯罪（名誉毀損罪）として処罰される可能性があります。**
- **匿名による投稿であっても、法的手続により、投稿者が特定され、損害賠償請求の対象になる可能性があります。**

公益財団法人 日本オリンピック委員会　公益財団法人 日本スポーツ協会　公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会　一般社団法人 大学スポーツ協会
公益財団法人 全国高等学校体育連盟　公益財団法人 日本中学校体育連盟　独立行政法人 日本スポーツ振興センター

FAIR PRIDE

勝利を超える価値がある

私たちは信じる。

正々堂々と競いあう潔さを。

相手をリスペクトすることで生まれる友情や感動を。

まっすぐ挑戦しつづける、そこに、

自分や、仲間や、社会さえ変える力があることを。

さあ、すべては、私たちの中にある

フェアネスの心からはじまる。

スポーツのフェアネスが、社会のフェアネスを支えるために。

JADA PLAY TRUE Japan Anti-Doping Agency

青の煌めきあおもり国スポ 2026 翔ける未来へ縄文の風に乗って 第80回国民スポーツ大会

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構

Copyright © JAPAN Anti-Doping Agency All Rights Reserved.

MIZUNO SPORTS PROMOTION FOUNDATION

1970 ▷▷▷▷▷▷ 56TH ▷▷▷▷▷▷ 2026










スポーツを愛する人たちへ

私たち、ミズノスポーツ振興財団は、

スポーツの普及、振興に必要な事業を行い、

スポーツを愛する人たちを応援しています。

公益財団法人
ミズノスポーツ振興財団

競技会場地マップ Venue map

県内全40市町村と県外3市町において、国スポ・障スポ合わせて104競技を開催！

国スポ　正式競技（37）　特別競技（1）　公開競技（7）　デモンストレーションスポーツ（39）　冬季正式競技（3）

障スポ　正式競技（14）　オープン競技（3）

（身）身体障がい者が出場できる競技　（知）知的障がい者が出場できる競技
（精）精神障がい者が出場できる競技

東青地域

青森市

- 国スポ総合開・閉会式
- 障スポ開・閉会式
- 陸上競技
- 水泳（競泳）
- 水泳（水球）
- 水泳（アーティスティックスイミング）
- 水泳（オープンウォータースイミング）
- テニス
- バレーボール（6人制）
- バレーボール（ビーチバレーボール）
- ハンドボール
- ソフトテニス
- 卓球
- 軟式野球
- ライフル射撃（25m）
- ラグビーフットボール（15人制）
- スポーツクライミング（リード・ボルダー）
- アーチェリー
- ゴルフ
- トライアスロン
- ウォークビンゴ
- カーリング
- ソフトバレーボール
- ターゲット・バードゴルフ
- ドッジボール
- 年齢別ソフトテニス
- 年齢別テニス
- ふれあいボウリング
- ユニバーサルホッケー
- ラージボール卓球
- ダンススポーツ
- 陸上競技（身・知）
- 水泳（身・知）
- アーチェリー（身）
- 卓球（身・知・精）
  サウンドテーブルテニス（身）を含む。

平内町

- ゴルフ
- 綱引

今別町

- 年齢別バドミントン

蓬田村

- モルック

外ヶ浜町

- ペタンク

下北地域

むつ市

- ローイング
- バスケットボール
- セーリング
- フェンシング
- フライングディスク
- バスケットボール（知）

大間町

- ウオーキング

風間浦村

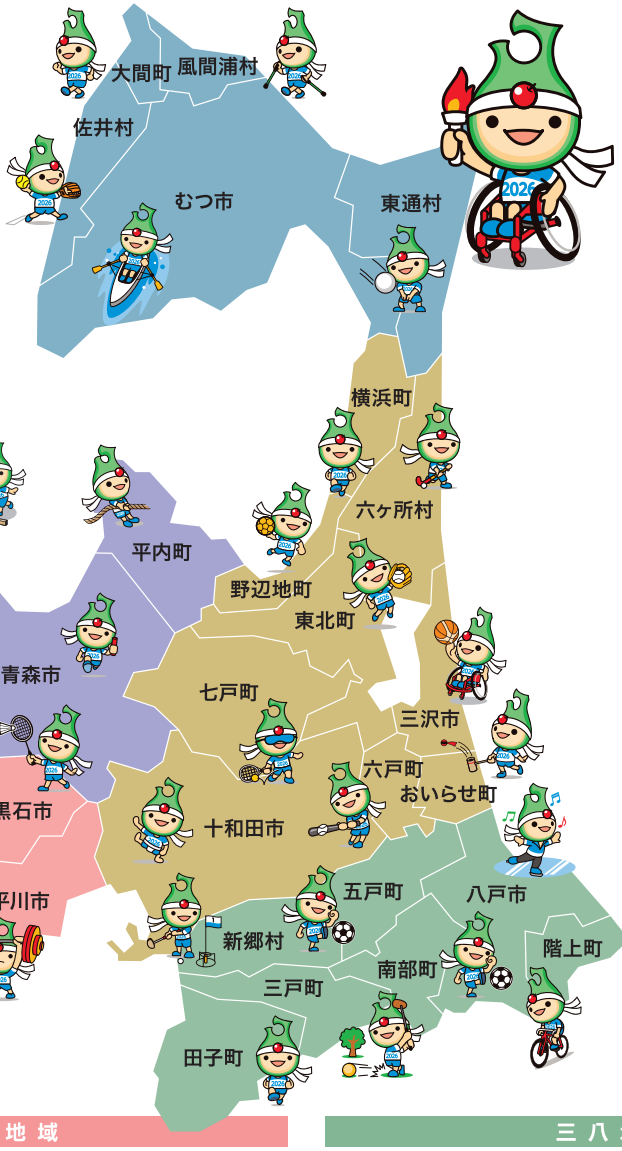
- ノルディックウォーキング

東通村

- ソフトバレーボール

佐井村

- ふれあいソフトボール



上北地域

十和田市

- サッカー
- バスケットボール
- 相撲
- ゲートボール
- バウンドテニス
- パークゴルフ
- Let's Enjoy バウンドテニス
- バレーボール（身）

三沢市

- ホッケー
- バスケットボール
- 軟式野球
- ソフトボール
- 銃剣道
- 武術太極拳
- いきいき太極拳
- スケート（ショートトラック）
- アイスホッケー
- ボウリング（知）
- 車いすバスケットボール（身）
- デフボウリング（身）

野辺地町

- ハンドボール

七戸町

- 剣道
- ブラインドテニス（身）

六戸町

- 軟式野球

横浜町

- マラソン

東北町

- ソフトボール
- 女子ソフトボール
- ソフトボール（知）

六ヶ所村

- ホッケー
- 軟式野球

おいらせ町

- 軟式野球
- スポーツチャンバラ
- ファイン・ボール
- ブラインドベースボール（身）
- ファイン・ボール（身）

西北地域

五所川原市

- バレーボール（6人制）
- バレーボール（精）

つがる市

- バレーボール（6人制）
- 柔道
- バレーボール（知）

鰺ヶ沢町

- マスターズスイミング

深浦町

- ノルディックウォーキング

板柳町

- ふれあいゲートボール
- ウオーキング

鶴田町

- マラソン&ウォーキング

中泊町

- ビーチサッカー

中南地域

弘前市

- 体操（競技）
- 体操（新体操）
- 体操（トランポリン）
- ソフトボール
- 弓道（近的・遠的）
- ライフル射撃（50m、10m、BR・BP）
- 空手道
- クレー射撃（トラップ・スキート）
- 高等学校野球（硬式・軟式）
- マスターズ陸上競技
- ビリヤード
- フライングディスク（身・知）
- ボッチャ（身）

黒石市

- バドミントン

西目屋村

- カヌー（スプリント）
- カヌー（スラローム・ワイルドウォーター）

大鰐町

- パラグライディング
- オリエンテーリング
- スキー（ジャイアントスラローム）
- スキー（クロスカントリー）

平川市

- ウエイトリフティング
- グラウンド・ゴルフ
- エアロビック
- インディアカ

藤崎町

- なぎなた
- パワーリフティング
- スポーツウエルネス吹矢

田舎館村

- ユニカール

三八地域

八戸市

- サッカー
- バスケットボール
- レスリング
- 自転車（トラックレース）
- ソフトボール
- ラグビーフットボール（7人制）
- ボウリング
- 空道
- スケート（スピード）
- スケート（フィギュア）
- アイスホッケー
- サッカー（知）
- フットソフトボール（知）

三戸町

- パークゴルフ

五戸町

- サッカー

田子町

- マラソン

南部町

- サッカー

階上町

- 自転車（ロードレース）
- フロアボール

新郷村

- エンジョイ！グラウンド・ゴルフ

県外

宮城県利府町

- 水泳（飛込）

山梨県北杜市

- 馬術

秋田県鹿角市

- スキー（スペシャルジャンプ）
- スキー（コンバインド）

青の煌めきあおもり国スポ・障スポ 2026

翔けろ未来へ縄文の風に乗って

第80回国民スポーツ大会・第25回全国障害者スポーツ大会

競技記録結果

開設期間

2026年８月28日（金）～12月22日（火）

PC･スマホ： https://kirokukensaku.net/5NS26/index.html

フィーチャーフォン： http://kirokukensaku.net/5NS26/mob/index.html

PC･スマホ
二次元コード

フィーチャーフォン
二次元コード

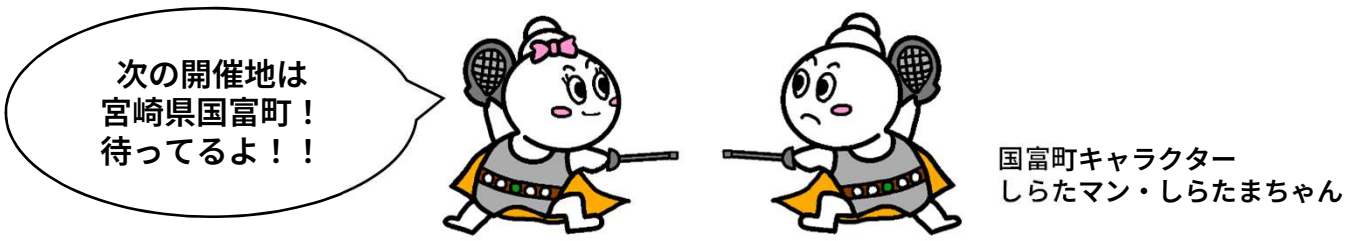
国スポチャンネル

国スポの動画配信を行っています。
※競技によって配信スケジュールが異なります。
https://japangamestv.japan-sports.or.jp/

むつ市実行委員会ホームページ・SNS

むつ市実行委員会HP： https://www.city.mutsu.lg.jp/kokuspo/

X　Instagram　Facebook



国富町キャラクター
しらたマン・しらたまちゃん

青の煌めきあおもり国スポ･障スポむつ市実行委員会
青森県むつ市中央一丁目8番1号　TEL：0175-22-1111
（むつ市役所市民生活部国スポ･障スポ推進課）